



滋賀県立大学
平成29（2017）年度
講義概要（シラバス）

※この冊子は、Web版シラバスをPDFに変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/>) で、ご確認ください。

目 次

1110121	英語 A (活性化コース) (人文)	渡 寛法	前期	...	1
1110122	英語 B (活性化コース) (人文)	渡 寛法	後期	...	3
1110131	英語 A (活性化コース) (人文)	香山 恵美	前期	...	5
1110132	英語 B (活性化コース) (人文)	香山 恵美	後期	...	7
1110141	英語 A (活性化コース) (人文)	佐久間 思帆	前期	...	9
1110142	英語 B (活性化コース) (人文)	佐久間 思帆	後期	...	11
1110151	英語 A (活性化コース) (人文)	西澤 裕一	前期	...	13
1110152	英語 B (活性化コース) (人文)	西澤 裕一	後期	...	15
1110161	英語 A (活性化コース) (人文)	関 初海	前期	...	17
1110162	英語 B (活性化コース) (人文)	関 初海	後期	...	19
1110331	英語 A (応用コース) (人文)	Carl John Boland	前期	...	21
1110332	英語 B (応用コース) (人文)	Carl John Boland	後期	...	23
1110341	英語 A (応用コース) (人文)	Armando Duarte	前期	...	25
1110342	英語 B (応用コース) (人文)	Armando Duarte	後期	...	27
1110351	英語 A (応用コース) (人文)	Ashley Mark Stevens	前期	...	29
1110352	英語 B (応用コース) (人文)	Ashley Mark Stevens	後期	...	31
1110361	英語 A (応用コース) (人文)	Gordon Maclaren	前期	...	33
1110362	英語 B (応用コース) (人文)	Gordon Maclaren	後期	...	35
1110371	英語 A (応用コース) (人文)	Karl Hedberg	前期	...	37
1110372	英語 B (応用コース) (人文)	Karl Hedberg	後期	...	39
1110531	英語 A (充実コース) (人文)	西澤 裕一	前期	...	41
1110532	英語 B (充実コース) (人文)	西澤 裕一	後期	...	43
1110541	英語 A (充実コース) (人文)	渡 寛法	前期	...	45
1110542	英語 B (充実コース) (人文)	渡 寛法	後期	...	47
1110551	英語 A (充実コース) (人文)	Walter Klinger	前期	...	49
1110552	英語 B (充実コース) (人文)	坂本 輝世	後期	...	51
1110561	英語 A (充実コース) (人文)	佐久間 思帆	前期	...	53
1110562	英語 B (充実コース) (人文)	佐久間 思帆	後期	...	55
1110571	英語 A (充実コース) (人文)	Carl John Boland	前期	...	57
1110572	英語 B (充実コース) (人文)	Carl John Boland	後期	...	59
1110741	英語 A (展開コース) (人文)	坂元 敦子	前期	...	61
1110742	英語 B (展開コース) (人文)	坂元 敦子	後期	...	63
1110751	英語 A (展開コース) (人文)	吉田 亞矢	前期	...	65
1110752	英語 B (展開コース) (人文)	吉田 亞矢	後期	...	67
1110761	英語 A (展開コース) (人文)	坂元 敦子	前期	...	69
1110762	英語 B (展開コース) (人文)	坂元 敦子	後期	...	71
1110771	英語 A (展開コース) (人文)	真田 満	前期	...	73
1110772	英語 B (展開コース) (人文)	真田 満	後期	...	75
1110781	英語 A (展開コース) (人文)	坂本 輝世	前期	...	77
1110782	英語 B (展開コース) (人文)	坂本 輝世	後期	...	79
1130090	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文a)	森 将豪	前期	...	81
1130100	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文b)	亀田 彰喜	前期	...	83
1130110	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文c)	森 将豪	前期	...	85
1130120	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文d)	山本 洋紀	前期	...	87
1130200	情報科学概論 (人文b) 亀田 彰喜		後期	...	89
1130210	情報科学概論 (人文a) 森 将豪		後期	...	91
1130220	情報科学概論 (人文c) 森 将豪		後期	...	93
1130230	情報科学概論 (人文d) 亀田 彰喜		後期	...	95
1150390	人間探求学 (地域文化) 学科教員		前期	...	97
1150451	川の未来学 村上 修一		前期	...	99
1150480	比較文明論 定森 秀夫		後期	...	101
1150540	History of Japanese Cinema Carl John Boland		前期	...	103
1150550	Patterns in Japanese Culture & Society Carl John Boland		後期	...	105
1150560	Model United States of America Benjamin John McCracken		前期	...	107
1150570	Model United Nations Benjamin John McCracken		後期	...	109
1400030	アジア・地域交流論 B/ Borjigin Burensain		前期	...	111
1400040	アジア・地域交流論 C/ 定森 秀夫		後期	...	113
1400050	アジア交流論 阿部 健一		前期集中	...	115
1400065	アジア文献講読 A 定森 秀夫		通年	...	117
1400066	アジア文献講読 B 田中 俊明		通年	...	119
1400067	アジア文献講読 C 横田 祥子		通年	...	121
1400090	インド・チベット地域文化論/ 棚瀬 慈郎		後期	...	123
1400105	英書講読 (地域文化) 市川 秀之		通年	...	125
1400230	近江商人論 宇佐美 英機		前期	...	127
1400360	環琵琶湖文化論実習 (地域文化) 学科教員		通年	...	129
1400370	漢文講読 田中 俊明		通年	...	131
1400390	基層文化論 中井 均		後期	...	133
1400560	近世近江論 水本 邦彦		前期集中	...	135
1400600	芸術学 亀井 若菜		後期	...	137
1400650	現代ジャーナリズム論 関根 英爾		後期	...	139
1400690	現代中国論 横田 祥子		前期	...	141
1400740	考古学 中井 均		前期	...	143
1400741	考古学実習 定森 秀夫		前期	...	145
1400742	考古学実習 定森 秀夫		後期	...	147
1400750	考古学特論/ 定森 秀夫		後期	...	149

1400751	考古学特論A	中井 均 後期	151
1400752	考古学特論B	定森 秀夫 後期	153
1400760	考古地理実習	/ 中井 均 後期	155
1400770	考古地理実習	A / 定森 秀夫 通年	157
1400780	考古地理実習	B / 塚本 礼仁 通年	159
1400890	古文書演習	水野 章二 前期	161
1400900	古文書演習	東 幸代 後期	163
1400970	自然地理学	青木 哲哉 前期集中	165
1400980	質的データ解析論	武田 俊輔 後期	167
1401050	社会学概論	武田 俊輔 前期	169
1401120	社会調査実習(地域文化、人間関係)	武田 俊輔 通年	171
1401125	地域社会調査実習	武田 俊輔 通年	173
1401130	社会調査方法論	大野 光明 後期	175
1401140	社会調査論	中井 治郎 前期	177
1401180	社会変動論	丸山 真央 後期	179
1401500	人文地理学A	塚本 礼仁 後期	181
1401510	人文地理学B	塚本 礼仁 後期	183
1401750	西洋史概説	北村 知之 前期集中	185
1401790	組織とネットワークの社会学	岩館 豊 前期集中	187
1401830	卒業研究・論文(地域文化)	学科教員 通年研究	189
1401840	対外文化交流論A	田中 俊明 前期	191
1401860	対外文化交流論C	/ Borjigin Burensain 後期	193
1401900	地域経済史論	東 幸代 後期	195
1401920	地域研究論	上田 洋平 前期	197
1401950	地域考古学C	伊庭 功 前期集中	199
1401960	地域考古学D	松本 啓子 後期集中	201
1401980	地域と空間	市川 秀之 後期	203
1401990	地域文化演習	学科教員 通年	205
1402000	地域文化演習	学科教員 通年	207
1402010	地域文化演習	学科教員 通年	209
1402011	地域文化基礎演習	学科教員 後期	211
1402020	地域文化財論A	伊藤 裕久 前期集中	213
1402030	地域文化財論B	濱崎 一志 後期	215
1402050	地誌学	塚本 礼仁 前期	217
1402080	中国・内モンゴル地域文化論	/ Borjigin Burensain 後期	219
1402090	中国語文献講読	/ 横田 祥子 通年	221
1402110	中国地域文化論	横田 祥子 後期	223
1402160	朝鮮語文献講読	/ 定森 秀夫 通年	225
1402170	朝鮮地域文化特論	安田 純也 前期	227
1402171	朝鮮地域文化論	田中 俊明 後期	229
1402180	朝鮮地域文化論A	/ 田中 俊明 後期	231
1402190	朝鮮地域文化論B	/ 河 かおる 前期	233
1402200	朝鮮文化論	/ 河 かおる 後期	235
1402201	地理学実習	塚本 礼仁 前期	237
1402202	地理学実習	塚本 礼仁 後期	239
1402240	哲学概論A	鞍田 崇 前期集中	241
1402250	哲学概論B	鈴木 真 前期集中	243
1402360	統計学基礎	細馬 宏通 前期	245
1402370	東洋史概説	田中 俊明 後期	247
1402380	日本・地域交流特論	京樂 真帆子 後期	249
1402390	日本史概説	水野 章二 前期	251
1402400	日本社会論	武田 俊輔 後期	253
1402420	日本史料講読	水野 章二 通年	255
1402430	日本文化史論	/ 京樂 真帆子 前期	257
1402441	日本文化史論A	京樂 真帆子 前期	259
1402450	日本文化論	京樂 真帆子 前期	261
1402540	人間文化論A	細馬 宏通 前期	263
1402550	人間文化論B	定森 秀夫 後期	265
1402560	人間文化論C	宮本 雅子 後期	267
1402580	農耕社会論	/ Borjigin Burensain 後期	269
1402601	博物館経営論	市川 秀之 前期	271
1402602	博物館展示論	亀井 若菜 後期	273
1402665	地域と行政	宗野 隆俊 前期	275
1402705	地域と経済	秋山 道雄 前期	277
1402710	比較文化論(地域)	石川 慎治 後期	279
1402711	東アジア考古学概論	定森 秀夫 後期	281
1402730	美術史	/ 亀井 若菜 前期	283
1402732	美術史B	亀井 若菜 前期	285
1402741	美術史実習	亀井 若菜 前期	287
1402930	文化財・保存修景論B	中井 均 後期	289
1402940	文化財情報論	濱崎 一志 後期	291
1402950	文化社会学	武田 俊輔 前期	293
1402960	文化人類学概論A	島村 一平 前期	295
1402970	文化人類学概論B	棚瀬 慈郎 後期	297
1402980	文化人類学特論	棚瀬 慈郎 前期	299
1403020	民俗学	市川 秀之 後期	301
1403030	民俗学実習	市川 秀之 後期	303
1403031	民俗学特論	市川 秀之 後期	305
1403070	モンゴル地域文化論	/ 島村 一平 前期	307
1403100	量的データ解析論	丸山 真央 前期	309

1403110 量的データ解析論 岡本 裕介 後期集中
1403210 歴史的地域論 水野 章二 後期

・ ・ ・ 311
・ ・ ・ 313

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110121	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (30%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

初回授業には時間を測れるストップウォッチ (スマートフォンでも計測機能があればOK) を持ってきてください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110122	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (30%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	香山 恵美	
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキヤニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

到達目標

日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30% 授業内での取り組み
30% 授業内の課題
40% 到達度確認テスト (2回)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	香山 恵美	
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキミングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

到達目標

日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30% 授業内での取り組み
30% 授業内の課題
40% 到達度確認テスト (2回)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆	
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後に課題の提出が毎回あります。

到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition	妻鳥千鶴子、田平真澄	センゲージラーニング	978-4-86312-293-2
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆	
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後に課題の提出が毎回あります。

到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition	妻鳥千鶴子、田平真澄	センゲージラーニング	978-4-86312-293-2
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)							担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
5. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度 (授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど)

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりとしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	97848600133
2	キクタンTOEIC TEST SCORE 500	一杉武史	アルク	9784757428584
3	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身!	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	Roman Holiday (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	Roman Holiday (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	Roman Holiday (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	Roman Holiday (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	Roman Holiday (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	Roman Holiday (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	Roman Holiday (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	Roman Holiday (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	Roman Holiday (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	Roman Holiday (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	Roman Holiday (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	Roman Holiday (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	Roman Holiday (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第16回	Roman Holiday (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第17回	Roman Holiday (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	Roman Holiday (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	Roman Holiday (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第20回	Roman Holiday (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第21回	Roman Holiday (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	Roman Holiday (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	Roman Holiday (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	Roman Holiday (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	Roman Holiday (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	Roman Holiday (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	Roman Holiday (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	Roman Holiday (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	Roman Holiday (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	Roman Holiday (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習

担当者から一言

12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)							担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
5. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度 (授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど)

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりとしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	97848600133
2	キクタンTOEIC TEST SCORE 500	一杉武史	アルク	9784757428584
3	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身!	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	Roman Holiday (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	Roman Holiday (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	Roman Holiday (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	Roman Holiday (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	Roman Holiday (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	Roman Holiday (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	Roman Holiday (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	Roman Holiday (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	Roman Holiday (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	Roman Holiday (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	Roman Holiday (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	Roman Holiday (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	Roman Holiday (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第16回	Roman Holiday (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第17回	Roman Holiday (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	Roman Holiday (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	Roman Holiday (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第20回	Roman Holiday (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第21回	Roman Holiday (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	Roman Holiday (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	Roman Holiday (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	Roman Holiday (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	Roman Holiday (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	Roman Holiday (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	Roman Holiday (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	Roman Holiday (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	Roman Holiday (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	Roman Holiday (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習

担当者から一言

12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	関 初海	
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

到達目標

- (1) 英語の語彙力を身につける
- (2) リスニング能力の向上
- (3) リーディング能力の向上
- (4) ライティング能力の向上
- (5) スピーキング能力の向上
- (6) TOEICスコアをアップさせる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1), (3), (4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	40	到達目標(2), (6)について2回の到達確認テストで評価(30%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価(10%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa他	南雲堂	9784523177418
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	関 初海	
講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

到達目標

- (1) 英語の語彙力を身につける
- (2) リスニング能力の向上
- (3) リーディング能力の向上
- (4) ライティング能力の向上
- (5) スピーキング能力の向上
- (6) TOEICスコアをアップさせる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1), (3), (4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	40	到達目標(2), (6)について2回の到達確認テストで評価(30%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価(10%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa他	南雲堂	9784523177418
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)							担当教員	Carl John Boland
講義コード	1110331	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Final Speaking Test (50%).

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110332	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Comedy Sketch Performance Test (50%).

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher meets with each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read their essay or story aloud and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Portfolio: Students write 8 textbook writing assignment essays.

Final Presentation: Students read aloud 1 of their 8 essays to the class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	30	In-class final: Choose one of your 8 writings and orally present it to the class. You will be assessed according to the speaking and writing rubrics.
レポート課題	50	Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each, Writing Objective 3 - 50%
上記以外	20	Writing portfolio - Homework assignments from weeks 2-7 and 9-13. Total 8 essays. Show your essays to the teacher for corrections as you finish each essay. Show your collection of corrected essays to the teacher in weeks 14-15.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを3回以上欠席すると毎回欠席は採点から3点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Armando Duarte	
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別			
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

This class is an introduction to academic skills. You will develop all four of your English skills (listening, speaking, reading, and writing). You will read articles, listen to stories, watch videos, and talk about each topic. At the same time that you use English to learn about real-world content, you will apply it to your life and compare and contrast it with Japan.

In this class, we will start to develop skills that you need not only in English but also in Japanese. These include (1) Give, agree with, and politely disagree with opinions. (2) Analyze new facts and apply them to your life. (3) Decide when information is reliable and important. (4) Understand the basic structure of conversations, things you hear, and articles you read. (5) Provide support for your ideas. (6) Participate in pair and small group discussions.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary). Their English will also be (4) grammatically correct.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	Interview exam 20% Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade. Story Presentation 15%, Writing and Speaking Objectives 1,2, and 3 are worth 50% each of the total grade.
レポート課題	15	Research Paper 15% Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Writing Objective 2 is worth 50% of the total grade.
上記以外	25	Home work 15% and In Class participation 10%

If you miss more than 5 classes, you will not be able to pass the class. Also, if you are more than 30 minutes late, you will be marked as absent for that day.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Reading Adventures 3		Cengage National Geographic Learning	978-0-8400-3039-9
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Ashley Mark Stevens	
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Outline: The course aims to develop and expand on learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	60% Final Interview Test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test. 25% Final Written Test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% each and Writing Objective 3 is worth 50%
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Ashley Mark Stevens	
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Outline: The course aims to develop and expand on learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	60% Final Interview Test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test. 25% Final Writing Test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% each and Writing Objective 3 is worth 50%
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English II	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Gordon Maclaren	
講義コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and speech presentations. Our text is a play made up of 20 short parts, most of which one-third of student pairs will intensively study at home (= major homework every 3rd week). In normal class weeks, from April to June, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, movements and gestures as a class, then in pairs. After studying, the next week some pairs will perform the memorized scene as a test. Each student pair will do this four times. In July, those same student pairs will rewrite 5 pages worth of scene dialog, changing over half of it. Once the instructor corrects it, they will then perform 'their own' scene as a final test.

PAIR-ACT DRAMA SCENE (1/3 OF STUDENT PAIRS GRADED WEEKLY; FOLLOWING WEEK'S PRONUNCIATION PRACTICE)

到達目標

- (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
- (2) Students will be able to speak English with fluency.
- (3) Students will be able to speak English with good delivery.
- (4) Students will be able to speak grammatically correct English.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

授業外学習

Study 4 scenes for pair performance from memory (8 hours total) Pairs rewrite 75-90% of a 'new' scene based on Scenes VII & VIII (4 hours) Study this combined scene for end-of-term performance from memory (3 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars[New Version]		Drama Works, 2009	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Gordon Maclaren	
講義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues. Our text is a play made up of 20 short parts, half of which each pair of students will study at home (= homework every 2nd week). Most weeks in class, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, choreography and gestures as a class. The next week, half of the class student pairs will perform the memorized scene. Each term, half the class -- in student pairs -- will rewrite then perform 1-2 scenes. In the middle of the other term (either June or November), students will individually write about themselves or something that interests them. This paper will form the basis of a private chat with me, conducted while the rest of the class is learning and listening to the dialog of an English movie.

到達目標

- (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
- (2) Students will be able to speak English with fluency.
- (3) Students will be able to speak English with good delivery.
- (4) Students will be able to speak grammatically correct English.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

授業外学習

Study 2 scenes for pair performance (5 hours total) Study two or three Screen Plays for movie quiz (3 hours total) Write an extensive 350-550 word report on your life, an autobiography, in English (7 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars [New Version]		(Drama Works, 2009)	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Karl Hedberg	
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Karl Hedberg	
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English II	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含みます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500		旺文社	978010941751
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力をつけて

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含まれます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500		旺文社	978010941751
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力をつけて

講義名	英語 A (充実コース) (人文)							担当教員	渡 寛法
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC頻出のテーマごとに、語彙や文法を学びながら、問題演習を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標(1)に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します(40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標(2)に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し(30%)、到達目標(3)に関しては、各回の小テストで評価します(30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『LIGHTING UP THE TOEIC TEST』	植木美千子ほか	金星堂	978-4-7647-4025-9
2				
3				

初回授業には時間を測れるストップウォッチ(スマートフォンでも計測機能があればOK)を持ってきてください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「意味順」で学ぶ英会話	田地野彰(監修)	日本能率協会マネジメントセンター	978-4820749592
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)							担当教員	渡 寛法
講義コード	1110542	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC頻出のテーマごとに、語彙や文法を学びながら、問題演習を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (30%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『LIGHTING UP THE TOEIC TEST』	植木美千子ほか	金星堂	978-4-7647-4025-9
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「意味順」で学ぶ英会話	田地野彰 (監修)	日本能率協会マネジメントセンター	978-4820749592
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English speaking and writing skills in enjoyable and educational communicative activities such as card games and TV comedy skits.
 Students write a one or two-page essay. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write better sentences. Students next read aloud their essay and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, in the mid-term test, students read aloud their essays to the teacher. The teacher gives grades for writing and speaking.
 For the final test, students say aloud to the teacher 4 pictures of everyday action sequences. Students also show to the teacher their written story about everyday events. The teacher gives grades for writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	Final Test: Action English Pictures & Never Ending Story. Students meet with the teacher one-by-one and say what is happening in 4 Action English Pictures that we studied in class. Each Speaking Objective is worth 25%. Students also show their written Never Ending
レポート課題		
上記以外	50	Mid-term Speaking & Writing test: Essay. Students read aloud to the teacher their original written essay. Speaking and Writing are each 50%. Each Speaking Objective on the rubric is worth 25% of the Speaking section. Writing Objectives 1 & 3 on

授業外学習

Homework:
One hour per week.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

HandoutsはHPからダウンロードできる。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

この授業では、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティに積極的に取り組んで、さらに英語力を伸ばしていただきたい。

到達目標

- (1) スピーキング力を向上させる
- (2) リスニング力を向上させる
- (3) 積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む
- (4) 時事問題への理解を深める

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25%	到達目標 (1) について、期末英語スピーチによって評価
レポート課題		
上記以外	75%	到達目標 (1) について、単語クイズによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、リスニング・ジャーナルによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、聞き取りクイズによって評価 (15%)

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310
2				
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆	
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

日本語字幕に頼らずに、アメリカで制作されたテレビドラマ"FULL HOUSE"を楽しみます。言語は他の人と情報を伝達しあうためのものですから、他の人と関わりあわないと英語運用能力は向上しません。ですから、ほかの学生とペアになつての演習や音読練習など、授業への積極的な参加が出席の必要条件となります。内容を確実に身につけているか確認するため小テストと台詞和訳の提出課題が毎回あります。必要であれば辞書を持参し、不明な点は各自で調べる癖をつけてください。

到達目標

(1) 語彙力の向上、(2) リスニング力の向上、(3) 読解力の向上、(4) 英語での思考力の向上、(5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10%、(2) リスニング力10%、(3) 読解力10%、(4) 英語での思考力10%、(5) 英語での発信力10%
レポート課題		
上記以外	50	小テスト等(1) 語彙力10%、(2) リスニング力10%、(3) 読解力10%、(4) 英語での思考力10%、(5) 英語での発信力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

セリフをすらすらと言いながら書けるまで復習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布。プリントおよび音声データ等はアスポにてダウンロード可能。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でもよいので辞書を持参のこと。

前提学力等

3回生以上の特例処置で再履修を希望する学生は、本シラバスの内容に同意し、初回に出席しなければ受講を認めません。

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

日本語字幕に頼らずに、アメリカで制作されたテレビドラマ"FULL HOUSE"を楽しみます。言語は他の人と情報を伝達しあうためのものですから、他の人と関わりあわないと英語運用能力は向上しません。ですから、ほかの学生とペアになつての演習や音読練習など、授業への積極的な参加が出席の必要条件となります。内容を確実に身につけているか確認するため小テストと台詞和訳の提出課題が毎回あります。必要であれば辞書を持参し、不明な点は各自で調べる癖をつけてください。

到達目標

(1) 語彙力の向上、(2) リスニング力の向上、(3) 読解力の向上、(4) 英語での思考力の向上、(5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10%、(2) リスニング力10%、(3) 読解力10%、(4) 英語での思考力10%、(5) 英語での発信力10%
レポート課題		
上記以外	50	小テスト等(1) 語彙力10%、(2) リスニング力10%、(3) 読解力10%、(4) 英語での思考力10%、(5) 英語での発信力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

セリフをすらすらと言いながら書けるまで復習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布。プリントおよび音声データ等はアスポにてダウンロード可能。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でもよいので辞書を持参のこと。

前提学力等

3 回生以上の特例処置で再履修を希望する学生は、本シラバスの内容に同意し、初回に出席しなければ受講を認めません。

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Final Speaking Test (50%).

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Comedy Sketch Performance Test (50%).

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、旅行に関する英語表現を学びながら総合的な英語力をつけ、世界の人とコミュニケーションができるような力をつけることを目指します。テキストは出入国や機内での会話、現地で道を聞く、掲示を読む、書類に記入する、ホテルにチェック・インする、レストランで食事をする・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することにより基本的な表現を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取り組み、高得点取得を目指します。

到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、使えるようになる。
- (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。
- (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。
- (4) TOEICのスコアをのばす。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、授業で行うTOEIC模擬試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それをを用いて学習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641
2				
3				

辞書を毎回持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、前期に学習した旅行に関する英語表現をさらに発展させて学び、総合的な英語力をつけ、世界の人とよりスムーズにコミュニケーションできる力をつけることを目指します。テキストは現地で電話をかける、買い物をする、ホテルのチェック・アウトをする、問題を解決する・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することによりよりスムーズに表現できる力を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取り組み、高得点取得を目指します。

到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、よりスムーズに使えるようになる。
- (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。
- (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。
- (4) TOEICのスコアをのばす。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、12月に実施されるTOEIC試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それをを用いて学習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641
2				
3				

辞書を毎回持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	吉田 亞矢	
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

世界で使用されている様々な英語を“World Englishes”と呼ぶことがあるが、今や英語は英語母語話者と話すためだけに必要な言語ではなく、この呼称が物語るように、英語非母語話者の人々との意思疎通を図るためにも有用な言語である。前期は、世界各国を旅するレポーターからの英語ニュースとインタビューを視聴しながら、その国の言語・文化への理解を深めつつ、総合的な英語力を養う。テキストの各章は、リーディングとリスニングの構成になっているが、英語でレポートを作成したり(ライティング)、英語の質問に対して英語で答え、それを録音する(スピーキング)などの課題も随時提示される。受講者には、翻訳作業を除いて、可能な限り英語で受け答えをし、ディスカッションすることが求められる。

到達目標

- (1) “World Englishes” の概念を理解し、それについて自らの意見を述べる
- (2) 各国の旅事情、世界の英語事情について議論し、その結果を英語で発表する
- (3) 世界の国々の特色について、英語で簡潔に説明する

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)について、期末テストを行い、全体の40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標(2)について、到達度確認テストを行い、全体の30%として評価。 到達目標(3)について、隔週の小テスト(10%)および各回のレポート作成・録音作業(20%)にて全体の30%として評価。

<出席について>

授業への積極的な参加は前提である。出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものは無い。なお、正当な理由なく4回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は3回で欠席1回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

授業外学習

これまでの学習内容、これからの学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	On Board for More World Adventures	Scott Berlin・小林めぐみ	金星堂	978-4-7647-3991-8
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。また、受講者自らが問題に取り組み、理解を深めて

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English as a Global Language	David Crystal	Cambridge University Press	978-1107611801
2				
3				

・適宜、授業中にプリント配布する。

前提学力等

<辞書について>

外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)							担当教員	吉田 亞矢
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

前期に引き続き、世界各国を旅するレポーターからの英語ニュースとインタビューを視聴しながら、その国の言語・文化への理解を深めつつ、英語の四技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養う。後期は特に、英語が世界共通語と呼ばれるまでに至った背景的知識を得るため、サブテキストとしてDavid Crystal著 English as a Global Language を参照する。前期同様、受講者には、翻訳作業を除いて、可能な限り英語で受け答えをし、ディスカッションすることが求められる。リーディングとリスニング問題を軸に、英語でレポートを作成したり（ライティング）、英語の質問に対して英語で答え、それを録音する（スピーキング）などの課題も随時提示される。

到達目標

- (1) “World Englishes” に関する発展問題に、自らの意見や引用文を用いて解答する
- (2) 世界の旅事情、今後の英語事情について議論し、その結果を英語で発表する
- (3) 世界の国々の特色について、英語で詳細に説明する

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 (1) について、期末テストを行い、全体の40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 (2) について、到達度確認テストを行い、全体の30%として評価。 到達目標 (3) について、隔週の小テスト(10%)および各回のレポート作成・録音作業(20%)で評価。

<出席について>

授業への積極的な参加は前提である。出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。なお、正当な理由なく4回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は3回で欠席1回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

授業外学習

これまでの学習内容、これからの学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	On Board for More World Adventures	Scott Berlin・小林めぐみ	金星堂	978-4-7647-3991-8
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。また、受講者自らが問題に取り組み、理解を深めて

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English as a Global Language	David Crystal	Cambridge University Press	978-1107611801
2				
3				

・適宜、授業中にプリント配布する。

前提学力等

<辞書について>

外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、旅行に関する英語表現を学びながら総合的な英語力をつけ、世界の人とコミュニケーションができるような力をつけることを目指します。テキストは出入国や機内での会話、現地で道を聞く、掲示を読む、書類に記入する、ホテルにチェック・インする、レストランで食事をする・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することにより基本的な表現を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取り組み、高得点取得を目指します。

到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、使えるようになる。
- (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。
- (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。
- (4) TOEICのスコアをのばす。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、授業で行うTOEIC模擬試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それをを用いて学習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641
2				
3				

辞書を毎回持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、前期に学習した旅行に関する英語表現をさらに発展させて学び、総合的な英語力をつけ、世界の人とよりスムーズにコミュニケーションできる力をつけることを目指します。テキストは現地で電話をかける、買い物をする、ホテルのチェック・アウトをする、問題を解決する・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することによりよりスムーズに表現できる力を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取り組み、高得点取得を目指します。

到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、よりスムーズに使えるようになる。
- (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。
- (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。
- (4) TOEICのスコアをのばす。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、12月に実施されるTOEIC試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それをを用いて学習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641
2				
3				

辞書を毎回持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	真田 満	
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

TEDからの素材を使い、英文を読み、Video教材を視聴することで、英語の読解力と聴解力を伸ばす。また、批判的にテキストを読み、聞く力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。英語を読み、聞くだけの受け身の授業ではなく、教科書の文章をもとに、英語を書き、話す際の表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

到達目標

テキストの英文を正確に理解できる。
 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べるができる。
 正しい文法を身につけ、英語を書くことができる。
 正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 と について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 と に関し、2回小テストを行い、評価の30%とする。 到達目標 と に関しては、毎回の宿題と授業でのプレゼンテーションをもとに、評価の30%とする。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
 30分以上の遅刻は認めない。
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。
 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答していただくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage	9781305965041
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	真田 満	
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

TEDからの素材を使い、英文を読み、Video教材を視聴することで、英語の読解力と聴解力を伸ばす。また、批判的にテキストを読み、聞く力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。英語を読み、聞くだけの受け身の授業ではなく、教科書の文章をもとに、英語を書き、話す際の表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

到達目標

テキストの英文を正確に理解できる。
 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べるができる。
 正しい文法を身につけ、英語を書くことができる。
 正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 と について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 と に関し、2回小テストを行い、評価の30%とする。 到達目標 と に関しては、毎回の宿題と授業でのプレゼンテーションをもとに、評価の30%とする。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
 30分以上の遅刻は認めない。
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。
 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してこよう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage	9781305965041
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、さまざまなアクティビティーによって、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。フリップライティングのテキストでは、50 words程度の比較的易しい英語を使って、自分の考えを英語で発信する練習を行う。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティーに積極的に取り組んで、英語力を伸ばしていただきたい。

到達目標

- (1) スピーキング力を向上させる
- (2) リスニング力を向上させる
- (3) 積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む
- (4) 時事問題への理解を深める

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25%	到達目標 (1) について、期末英語スピーチによって評価
レポート課題		
上記以外	75%	到達目標 (1) について、単語クイズによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、リスニング・ジャーナルによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、聞き取りクイズによって評価 (15%)

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310
2	Write Your Ideas in 50 Words	Tetsuhito Shizuka	松柏社	9784881986899
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、前期に引き続き、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。フリップライティングのテキストでは、50 words程度の比較的易しい英語を使って、自分の考えを英語で発信する練習を行う。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティに積極的に取り組んで、さらに英語力を伸ばしていただきたい。

到達目標

- (1) スピーキング力を向上させる
- (2) リスニング力を向上させる
- (3) 積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む
- (4) 時事問題への理解を深める

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25%	到達目標 (1) について、期末英語スピーチによって評価
レポート課題		
上記以外	75%	到達目標 (1) について、単語クイズによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、リスニング・ジャーナルによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、聞き取りクイズによって評価 (15%)

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310
2	Write Your Ideas in 50 Words	Tetsuhito Shizuka	松柏社	9784881986899
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a)							担当教員	森 将豪
講義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報処理技術の習得は日常生活に資するだけでなく、大学で学ぶ上で情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要な情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と検索ツールを用いた文献資料検索技術、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに、情報倫理についても学ぶ。そして、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。

到達目標

- (1) 大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること、情報ネットワークの活用によって学術情報検索の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること、情報倫理についても理解を深めること。
- (2) 論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること。
- (3) 設定した問題に対し、彼我の論点を整理・対比させ、論理的に結論づけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す (1)大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること、情報ネットワークの活用によって学術情報検索の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること、情報倫理についても理解を深めること、(2)論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること、(3)設定した問題に対し、彼我
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストに代わる授業資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	知の技法：東京大学教養学部「基礎演習」テキスト	小林康夫・船曳建夫	東京大学出版会	4130033050/978-4130033053
2				
3				

前提学力等

キーボードからの入力に慣れておくこと。

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要な情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学术论文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学术论文発表の手法を習得する。

到達目標

(1) 情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても取得すること。
(2) 学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることとともに、情報倫理についても取得すること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c)							担当教員	森 将豪
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報処理技術の習得は日常生活に資するだけでなく、大学で学ぶ上で情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要な情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と検索ツールを用いた文献資料検索技術、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに、情報倫理についても学ぶ。そして、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。

到達目標

- (1) 大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること、情報ネットワークの活用によって学術学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること、情報倫理についても理解を深めること。
- (2) 論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること。
- (3) 設定した問題に対し、彼我の論点を整理・対比させ、論理的に結論づけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す (1)大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること、情報ネットワークの活用によって学術学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること、情報倫理についても理解を深めること、(2)論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること、(3)設定した問題に対し、彼我
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストに代わる授業資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	知の技法：東京大学教養学部「基礎演習」テキスト	小林康夫・船曳建夫	東京大学出版会	4130033050/978-4130033053
2				
3				

前提学力等

キーボードからの入力に慣れておくこと。

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d)							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報科学概論(人文b)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	情報科学概論(人文a)							担当教員	森 将豪
講義コード	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術を含む情報リテラシーの習得を前提とし、高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。
特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。
さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) 数式バーに自由に計算式を書くことができ、かつ組込関数も利用できる。
- (2) 表の可視化を行うことができ、それについて科学的な考察を加えることができる。
- (3) What-If分析を理解し、応用できる。
- (4) 回帰分析を理解し、収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる。
- (5) アンケート分析の手法を理解するとともにクロス集計ができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す(1)数式バーに自由に計算式を書くことができ、かつ組込関数も利用できる。(2)表の可視化を行うことができ、それについて科学的な考察を加えることができる。(3)What-If分析を理解し、応用できる。(4)回帰分析を理解し、収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる。(5)アンケート分析の手法を理解すると
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストに代わる授業資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初等統計学	P.G.ホーエル	培風館	978-4563008390
2				
3				

授業中に随時担当教員から示される。

前提学力等

レポートと学術論文の基本概念を理解(講義「情報リテラシー」を修得)していること。
初等統計学の基礎を理解していることが望ましい。

履修資格

講義名	情報科学概論(人文c)							担当教員	森 将豪
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術を含む情報リテラシーの習得を前提とし、高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。
特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。
さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) 数式バーに自由に計算式を書くことができ、かつ組込関数も利用できる。
- (2) 表の可視化を行うことができ、それについて科学的な考察を加えることができる。
- (3) What-If分析を理解し、応用できる。
- (4) 回帰分析を理解し、収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる。
- (5) アンケート分析の手法を理解するとともにクロス集計ができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す(1)数式バーに自由に計算式を書くことができ、かつ組込関数も利用できる。(2)表の可視化を行うことができ、それについて科学的な考察を加えることができる。(3)What-If分析を理解し、応用できる。(4)回帰分析を理解し、収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる。(5)アンケート分析の手法を理解すると
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストに代わる授業資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初等統計学	P.G.ホーエル	培風館	978-4563008390
2				
3				

授業中に随時担当教員から示される。

前提学力等

レポートと学術論文の基本概念を理解(講義「情報リテラシー」を修得)していること。
初等統計学の基礎を理解していることが望ましい。

履修資格

講義名	情報科学概論(人文d)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	人間探求学(地域文化)						担当教員	学科教員/東 幸代/石川 慎治/ 市川 秀之/亀井 若菜/京樂 真帆子/ 定森 秀夫/武田 俊輔/田中 俊明/ 塚本 礼仁/中井 均/濱崎 一志/ 水野 章二/横田 祥子	
講義コード	1150390	単位数	2	開講期	前期	授業種別			講義
ナンバリング番号	101HUM101								

授業概要

この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。授業形態は各学部により異なるが、学部毎に1年生を少人数グループ(5~6名)に分け、担当教員が割り当てられる。

到達目標

- (1)自らの考えを他者にわかりやすく説明することができる。
- (2)他者の考えをじっくり理解することができる。
- (3)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあうことができる。
- (4)人権感覚を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)自らの考えを他者にわかりやすく説明することができるについては、各小人数グループを担当する教員が設定したテーマに基づくレポートの提出により、評価を行う(30%)。 (2)他者の考えをじっくり理解することができる(30%)、(3)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発

授業外学習

レポート(1回)、また回によっては出席カードを兼ねたレスポンス・ペーパーを提出してもらう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

担当教員が指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

担当教員が指示する。

前提学力等

履修資格

講義名	川の未来学							担当教員	村上 修一
講義コード	1150451	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

本科目は、専門家あるいは一般市民として必ず関わりを有することになる、川の問題をとりあげる。まず、国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。次に、川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。その上で、川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

到達目標

- (1) 国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。
- (2) 川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。
- (3) 川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	到達目標 (1) : ワークシート1 (30%) 到達目標 (2) : ワークシート2 (30%) 到達目標 (3) : ワークシート3 (40%)

ワークシート1, 2, 3は、それぞれ第5, 10, 14回の授業時間内に履修生が記述し、回収される。第6, 11, 15回に解説が行われ、履修生は理解を深める。

授業外学習

授業時間内に紹介される参考図書資料や参考サイトを閲覧すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	第十堰日誌	姫野雅義	七つ森書館	978-4822811426
2	吉野川住民投票 市民参加のレシピ	武田真一郎	東信堂	978-4798911922
3	再帰的近代の政治社会学 吉野川可動堰問題と民主主義の実験	久保田滋 他	ミネルヴァ書房	978-4623050826

授業時間内に参考図書資料や参考サイトを紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	比較文明論							担当教員	定森 秀夫
講義コード	1150480	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC201								

授業概要

古代文明の発生・展開・消滅の過程から、現代文明の未来を展望してみたい。古代文明にはエジプト文明・メソポタミア文明・インダス文明・中国文明の四大文明があり、新大陸にはインカ・マヤ・アステカ文明などがよく知られているが、その他に多様な文明が知られるようになってきた。本授業では、古代文明の相互の比較検討を通して、文明相互の共通性と相違性を認識し、時代と地域を越えて文明の融合は可能なのか、もし融合が可能でないとしたら、文明間の相互理解はどのようにしたら可能なのか、を考えていく契機を提供したい。

到達目標

1. 古代文明の内容を理解する 2. 古代文明と現代文明を時代と地域を越えて比較検討できるようにする 3. 文明間の相互理解のための方策を考える

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	小レポート2回(20%)と期末レポート1回(20%)の計3回。レポート内容および文章構成などの作文能力を評価。
上記以外	60	レスポンスカードを兼ねた出席カードで、出席を確認。出席カード代筆は、評価で0点となる。

10回以上出席で、レポートを3回提出して評価をするので、9回以下の出席とレポート2回以下の提出は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	History of Japanese Cinema							担当教員	Carl John Boland
講義コード	1150540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

History of Japanese Cinema is a two-credit culture studies course that examines Japan's world-renowned cinematic output over the last one hundred years. The defining developmental periods and golden eras of Japanese cinema will be examined through the work of major studios, auteur directors and their landmark films. The course will contextualise changes within the film industry and aesthetic developments against the socio-cultural background of particular periods (e.g. post-war/late modern, postmodern).

到達目標

This course aims to:

1. Deliver a comprehensive introductory course on the history of Japanese narrative cinema; one tailored for students who are not film majors.
2. Instruct students on approaches to film analysis as a means to broaden their study of Japanese society and culture.
3. Encourage students to develop a scholarly appreciation of film.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	Mid-term paper (30%), Final Review paper (30%)
上記以外	40	Group Presentation: Film Review.

Students are required to write and submit two 'film review' papers (mid-term, final). Students will also complete a group presentation project - a critical review of a Japanese film.

授業外学習

This is a lecture-based course. Due to time limitations, only film clips will be screened in class. Students will be provided with access to lecture materials and readings online.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

No prior film studies knowledge is required. Non-native speakers of English should ideally have a solid intermediate skill level (e.g. TOEFL iBT score of around 70).

履修資格

講義名	Patterns in Japanese Culture & Society							担当教員	Carl John Boland
講義コード	1150550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This introductory Japan studies course sets out to critically examine paradigms that have shaped academic and lay perceptions of Japanese social structures, identity and collective consciousness. The selection of topic domains is intended to underpin a broad based contextual analysis of contemporary social issues facing Japan. Concordantly, this enquiry is supported by an interdisciplinary conceptual framework that draws on salient perspectives from sociology, social psychology and cultural studies. The course adopts a simple unit structure and a lecture / seminar format. Students will be expected to participate actively in seminar discussions.

到達目標

1. To introduce the research principles that define interdisciplinary sociocultural studies.
2. To encourage students to adopt an interdisciplinary perspective towards sociocultural studies of Japan.
3. To stimulate informed debate about contemporary issues affecting Japanese society.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	Essay
上記以外	60	Seminar Review Questions [30] / Participation in group work and class discussions [30].

Students are required to write and submit: (1) A short essay on a relevant topic from the course, (2) Long paragraph answers to 4 review questions taken from the seminar classes.

授業外学習

教科書				
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	Model United States of America							担当教員	Benjamin John McCracken
講義コード	1150560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

Model USA is an educational simulation in which students will learn about the United States of America ("USA ") and its unique form of government. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a senator from one of the 50 states that make up the USA. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from the USA.

到達目標

(1) Students will learn about US history and how it impact the current policital environment. (2) Students will learn about the US governmental system and the role political parties play in it. (3) Students will learn current events and debate potential solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate in order to reach a solution to a problem.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	Students will write a three page paper on their expereince.
上記以外	80	Presentation 30 points x2 and 20 points for participation in class and group activities.

Students are expected to actively participate in class. Failure to actively participate will cause grades to be reduced.

授業外学習

Students will need to be aware of current events in the US. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Model United Nations							担当教員	Benjamin John McCracken
講義コード	1150570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

Model United Nations is an educational simulation in which students will learn about the United Nations (UN) and its role in the world. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a representative of from one of the many nations that make up the UN. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from around the world.

到達目標

(1) Students will learn about the history of the United Nations and how it impacts our world. (2) Students will learn about parliamentary procedure and how issues are debated at the UN. (3) Students will learn current events and debate potential solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate in order to reach a solution to a problem.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	Students will write a three page paper on their experience.
上記以外	80	Presentation 30 points x2 and 20 points for participation in class and group activities.

Students are expected to actively participate in class. Failure to actively participate will cause grades to be reduced.

授業外学習

Students will need to be aware of current events in the world. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	アジア・地域交流論 B /							担当教員	Borjigin Burensain
講義コード	1400030	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この講義では、アジアにおける人と物の交流がどのようなパターンで行われてきたのかを中国とモンゴル、中国と満洲との関係から立体的に捉えていきたい。常に現代に着目して、歴史と今日との間に行き来することによって立体的な多民族、多文化地域社会の姿を描き出したい。

到達目標

万里の長城と柳条辺を挟んだ中国大陸における人と物の交流を歴史的視点から理解できることを目指す。多民族、多文化が交錯する該当地域における複雑な現状に関してもある程度の視点を持てるようにしたい。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	期末試験に必ず参加すること。
レポート課題	30	レポート課題の提出とその内容による評価
上記以外	30	三分の二以上の出席が必要。また、レスポンスカードによる積極的な質問も評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	アジア・地域交流論C /							担当教員	定森 秀夫
講義コード	1400040	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

朝鮮半島は、旧石器時代から現在に至るまで日本と非常に関係が深い。朝鮮考古学の概要を理解し、日本考古学と比較してその相違性と相似性を理解することを目的とする。まず最初に、朝鮮考古学の基本と朝鮮考古学史の概要を講義する。そして、旧石器時代から朝鮮時代までの各時代における考古学の成果と問題点を概説する。場合によっては、主要な遺跡を取り上げたり、特殊な遺構・遺物を取り上げたりして、それらに関する詳しい内容を講義する。また、適宜スライド・ビデオなどを利用して、理解を深める。

到達目標

1. 朝鮮考古学の基本と朝鮮考古学史を理解する 2. 旧石器時代から統一新羅時代までの朝鮮考古学の内容を理解する 3. 日本考古学と比較して、日本と朝鮮との歴史的な関係を考える

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	小レポート2回(20%)と期末レポート1回(20%)の計3回。レポート内容および文章構成などの作文能力を評価。
上記以外	60	レスポンスカードを兼ねた出席カードで、出席を確認。出席カード代筆は、評価で0点となる。

10回以上出席で、レポートを3回提出して評価をするので、9回以下の出席とレポート2回以下の提出は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	アジア交流論							担当教員	阿部 健一
講義コード	1400050	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC208								

授業概要

人とモノと情報が、国境を越えて大量に行き交うのが今日の世界である。世界は次第に「小さく」なり、地域と地域の相互依存はますます強くなってきている。しかし一方で、この相互依存関係が、短絡的で歪んできている。例を挙げよう。我々の日常生活は海外からのモノであふれているが、そのモノが、たとえば食材を思えばるとわかりやすいが、どこか、だれによって、どのように生産されているのか、ほとんど知らないことが多いのではないかと。モノだけ一人歩きし、そのモノにまつわる「モノガタリ」が欠落しているのだから。またさまざまなメディアを通じて、他の地域の情報を得る機会は増えている。しかしその情報は、事件や奇妙な出来事などに偏っており、ごく普通の人々の日常的な生活を伝えるものは少ない。

授業では、まずこうした生活のリアリティを伝えることに主眼をおきたい。そこから我々とは違う価値観を伺い知ることができる。対象地域は、日本にもっとも近いアジア、なかでも東南アジア。アジアと一つにくくっても、そこには実に多様な地域がありさまざまな生活がある。そのいくつかを紹介しながら、一方で日本社会についても言及しておきたい。アジアを知ることは、実は自分たちを知ることにほかならない。異なる国の人とのコミュニケーションに欠かせないのは、言葉だけではなく、語るべき自分があるかどうかである。

グローバル化の今日、地域と地域がどう関わってゆくのか、じっくりと考える必要がある。それが「交流論」である。交流論の基礎は、まずお互いが、どこが同じでどこが違うのか知ることである。その次に、理解があり、そして交流が生まれる、と考えている。

到達目標

- (1) アジアをより身近に感じることができるようになる。
 - (2) アジアの人々とわれわれの間の共通する点と異なる点について知ることができる。
 - (3) アジアの人との相違について考えることで、日本社会の特徴についても理解を深めることができる。
- * アジアからの留学生は、日本社会のことを考えることによって自国についてより深く理解することができる。
- (4) 文化・価値観の異なる人々との交流のために必要なことは何なのか知ることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	80%	小テストの評価を20%、レポートでの評価を80%とする。小テストは2回を予定している。 小テストは、到達目標の(1)についての達成度を確認する作業である。一回につきそれぞれ10%をあてる。レポート
上記以外	20%	小テストの評価を20%、レポートでの評価を80%とする。小テストは2回を予定している。 小テストは、到達目標の(1)についての達成度を確認する作業である。一回につきそれぞれ10%をあてる。レポート

授業回数の三分の一を欠席したのものについては評価の対象外とする。やむを得ない理由で欠席する場合は、その旨を事前に担当教員に連絡すること。

授業外学習

特になし。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし。

履修資格

講義名	アジア交流論							担当教員	阿部 健一
講義コード	1400050	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	この50年間：世界の中の日本について	アジアのほかの地域の人と交流するためには、まずは自分たちのことを知らなければならない。最初は日本のことから始めたい。日本もアジアもこの半世紀の間に大きく変わった。その実態をさまざま
第2回	この50年間：世界の中の日本について	アジアのほかの地域の人と交流するためには、まずは自分たちのことを知らなければならない。最初は日本のことから始めたい。日本もアジアもこの半世紀の間に大きく変わった。その実態をさまざま
第3回	この50年間：高度成長時期の日本	引き続き日本の変化について。この50年を特徴づけるのが高度経済成長時期である。この間に何が起こったのか。そこで生まれた価値観とは何か。公害とコンビニエンスストアを取り上げ考えてみた
第4回	この50年間：高度成長時期の日本	引き続き日本の変化について。この50年を特徴づけるのが高度経済成長時期である。この間に何が起こったのか。そこで生まれた価値観とは何か。公害とコンビニエンスストアを取り上げ考えてみた
第5回	この50年間：レジリエントな社会に向けて（小テスト実施）	日本人の価値観が揺らいだのが、東北大地震である。日本社会はもはや安全・安心な社会でない。レジリエントな社会にむけて、そしてあらたな豊かさを実現するためにも、アジアとの交流を前提とし
第6回	多様なアジア：所変われば品かわる	アジアといっても実に多様である。次にアジアの多様性について紹介したい。異なる自然の中で、まず同じモノが、例えば中国とベトナムで違う扱いをされている例を示す。具体的にはトウモロコシで
第7回	多様なアジア：新天地を求めて森の中を移動する人々	アジアの熱帯林は人の住みにくく人口希薄なところである。その中でも泥炭湿地林は瘴癘の地であり、長く人が住んでいなかった。無主の熱帯林に次から次へと人が移住してきた。彼らはどこから何
第8回	多様なアジア：中華という発想	一方、アジアには重厚な歴史を積み重ねた地域もある。巨大な人口を抱えるインドと中国がその代表である。二つのうち、中国を取り上げ、その成り立ちから現在の状況を概観する。
第9回	多様なアジア：乾燥地に住む人々	アジアの自然は多様である。日本にはなじみのない砂漠や草原で暮らす人々がいる。イラン、カザフスタン、ウズベキスタンといった国々を例に、彼らの生活とそこで生まれた宗教、イスラームについ
第10回	曼荼羅のアジア（小テスト実施）	アジアの多様性はまだまだ紹介しきれない。アジアの人々の生活の断面を見ることで、多様なアジア生活について理解し、交流のあり方を考えてみたい。
第11回	交流の実践：東ティモール	国と国の交流もあれば、人と人との交流もある。2002年に独立したアジアの小国、東ティモール。彼らの生産できる唯一の国際的商品、コーヒーを通じた交流の実践を紹介する。生産地と消費地をつな
第12回	交流の実践：東ティモール	国と国の交流もあれば、人と人との交流もある。2002年に独立したアジアの小国、東ティモール。彼らの生産できる唯一の国際的商品、コーヒーを通じた交流の実践を紹介する。生産地と消費地をつな
第13回	違っているから価値がある：世界単位	交流はまず彼らと我々が違っていることを理解することから始まる。住んでいる環境、生活のしかた、そして価値観。アジアといってもさまざまである。地球はひとつだが、世界は一つではない。
第14回	国際理解・共感・関係価値	違っていることを知ることが交流の第一歩。次の一歩は「共感」することだろう。そして最後は、つながりをつくること。交流によって生まれるのが「関係価値」である。
第15回	アジア交流論：パナキュラーなグローバルイズム（レポート提出）	地域に根差した活動をする中で世界とつながることがある。海外に出て、外国語を駆使して仕事をすることが交流ではない。近年よく取り上げられるグローバル人材について考えながら、最後はパナ
担当者から一言		

講義名	アジア文献講読 A							担当教員	定森 秀夫
講義コード	1400065	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC204								

授業概要

東アジアの考古学の成果を吸収することは、日本考古学研究を進めていく上で必須になりつつあるといっても過言ではない。特に、朝鮮半島ならず韓国に考古学調査研究の成果を取り入れていく必要性は非常に高いと言える。韓国語で刊行された報告書・書籍および考古学関係雑誌掲載論文の中から重要と思われる文献を選び、講読し日本語訳文を作成していく。

到達目標

1. 辞書を使用して韓国語で書かれた考古学の文献を訳すことができるようになる。
2. 考古学の文献の日本語訳文を作成して、翻訳した韓国考古学文献の内容を理解する。
3. 日本考古学と韓国考古学との比較検討ができるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業への出席と翻訳担当部分の発表内容を評価基準とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

朝鮮語(初級コース)を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	アジア文献講読 A							担当教員	定森 秀夫
講義コード	1400065	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC204								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	購読文献の決定	授業の注意と進め方の説明。購読する文献を決める。購読文献の担当部分の決定。
第2回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第3回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第4回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第5回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第6回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第7回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第8回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第9回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第10回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第11回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第12回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第13回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第14回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第15回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第16回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第17回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第18回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第19回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第20回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第21回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第22回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第23回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第24回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第25回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第26回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第27回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第28回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第29回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第30回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
担当者から一言		

講義名	アジア文献講読 B							担当教員	田中 俊明
講義コード	1400066	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	230EXC205								

授業概要

わたしが担当している「漢文講読」の上級版。履修済みであることが基本条件である。内容的には、「漢文講読」履修レベルの高度な読解をめざす。履修していない場合は、自分でそのレベルまで到達するように、自習をしておく（どのようにするかは、相談にのります）。テキストは相談して決めるが、決まったらそれをコピーして配布する。基本的には現代活字・点校本にするが、ない場合は、板本の影印になるかも知れない（その場合、当然ながら、句読点はない）。授業は、毎回テキストを訓読し、現代語訳・註解をつける。

到達目標

中国・朝鮮・日本における前近代の史料は、漢文史料がかなりの割合を占める。「漢文講読」において基礎的な知識を身につけているので、より高度な読解について、実際に講読することを通して、理解を深める。史料が自分で読めるようになることが目標である。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	上記、小テストとするもの。2回実施する。レポート課題に対応する。
上記以外	60	日々の講読の準備・読解態度・そのでき、など。講読なので、毎回出て、指名されて答えることが必要。その対応も含める。

欠席が多くても、評価される場合もあるが、難しいと思う。まずは出席し、こちらが指摘したことを理解し、身につけ、自らの訓読・現代語訳・註解作業に活かす必要がある。

授業外学習

上記のように、自ら訓読・現代語訳・註解を行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは、上記のとおり、コピー配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

上記のように、「漢文講読」が履修済みであるか、そうでない場合に、ついてこれる知識が必要（程度については、相談にのります）。

履修資格

講義名	アジア文献講読 B							担当教員	田中 俊明
講義コード	1400066	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	230EXC205								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	テキストの選定	受講生と相談して、テキストを選定する。
第2回	進め方の説明	選定したテキストをコピー配布し、そのテキストの内容・成立についての解説、および今後の進め方を説明する。
第3回	講読 1	以下は、実際に講読を進める。
第4回	講読 2	同上
第5回	講読 3	同上
第6回	講読 4	同上
第7回	講読 5	同上
第8回	講読 6	同上
第9回	講読 7	同上
第10回	講読 8	同上
第11回	講読 9	同上
第12回	講読 1 0	同上
第13回	講読 1 1	同上
第14回	講読 1 2	同上
第15回	講読 1 3 ・小テスト	同上
第16回	講読 1 4	同上
第17回	講読 1 5	同上
第18回	講読 1 6	同上
第19回	講読 1 7	同上
第20回	講読 1 8	同上
第21回	講読 1 9	同上
第22回	講読 2 0	同上
第23回	講読 2 1	同上
第24回	講読 2 2	同上
第25回	講読 2 3	同上
第26回	講読 2 4	同上
第27回	講読 2 5	同上
第28回	講読 2 6	同上
第29回	講読 2 7	同上
第30回	講読 2 8 ・小テスト	同上

担当者から一言

講義名	アジア文献講読C							担当教員	横田 祥子
講義コード	1400067	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC206								

授業概要

中国語の新聞・雑誌・論文などの読解を通じて、中国語の高度な表現を学ぶとともに、現代中国事情を理解する。また、ピンイン・発音など基礎能力の確認と、基礎表現の定着をはかる。

到達目標

中国語メディアを日常的に利用できる語学力を身につける。また、中国語文献を読み、中国事情を理解できるようになることを目標とする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	(1) 中国語のピンインを正しく表記し、正確に発音できる。(10%) (2) 中国語の文章を的確に読解できる。(10%) (3) 日本語の文章を中国語に翻訳できる。(10%)
レポート課題	30	中国語の新聞・雑誌・論文を読んで理解し、適当な日本語に翻訳できる。
上記以外	40	毎回授業開始時に実施するテストで、単語・ピンイン・文章を正確に書ける。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

毎回、予習をしてきてください。電子辞書があると便利です。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	中国語文法教室	杉浦博文	大修館書店	9784469231212
2	中国語の文法スーパーマニュアル 中国語の奥底を流れる超重要ルールがわかる	古川裕	アルク	9784757413764
3	聴く中国語		日中通信社	

毎回読む文献は授業中に配付します。

前提学力等

原則として中国語 A、 B、 A、 Bを履修していること。

履修資格

講義名	アジア文献講読C							担当教員	横田 祥子
講義コード	1400067	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC206								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	中国語基礎力の確認
第2回	中国語テキストの読解1－日常生活について－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第3回	中国語テキストの読解2－日常生活について－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第4回	中国語テキストの読解3－食文化－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第5回	中国語テキストの読解4－食文化－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第6回	中国映画から表現を学ぶ1	中国映画の名作を鑑賞しながら、日本語にはない表現の仕方を学ぶ。
第7回	中国映画から表現を学ぶ2	中国映画の名作を鑑賞しながら、日本語にはない表現の仕方を学ぶ。
第8回	中国語テキストの読解5－社会問題－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第9回	中国語テキストの読解6－社会問題－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第10回	中国語テキストの読解7－若者事情－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第11回	中国語テキストの読解8－若者事情－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第12回	中国映画から表現を学ぶ3	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第13回	中国映画から表現を学ぶ4	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第14回	中国語テキストの読解9－歴史－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第15回	中国語テキストの読解10－歴史－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第16回	中国語新聞記事の読解1	中国語の新聞記事を読み、新聞表現と中国事情を学ぶ。
第17回	中国語新聞記事の読解2	中国語の新聞記事を読み、新聞表現と中国事情を学ぶ。
第18回	中国語新聞記事の読解3－日本に関する報道－	日本についての中国語新聞記事を読む。
第19回	中国語新聞記事の読解4－日本に関する報道－	日本についての中国語新聞記事を読む。
第20回	中国語テレビ番組から学ぶ1－宗教－	中国語のテレビ番組を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、宗教事情について学ぶ。
第21回	中国語テレビ番組から学ぶ2－宗教－	中国語のテレビ番組を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、宗教事情について学ぶ。
第22回	中国語雑誌記事の読解1－宗教－	宗教事情についての中国語新聞記事を読む。
第23回	中国語雑誌記事の読解2－宗教－	宗教事情についての中国語新聞記事を読む。
第24回	中国語雑誌記事の読解3－民族－	民族事情についての中国語新聞記事を読む。
第25回	中国語テレビ番組から学ぶ3－民族－	中国語のテレビ番組を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第26回	中国語テレビ番組から学ぶ4－民族－	中国語のテレビ番組を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第27回	中国語論文の読解1	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第28回	中国語論文の読解2	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第29回	中国語論文の読解3	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第30回	中国語論文の読解4	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。

担当者から一言

日本人にとって中国語の読解は、基本的文法をおさえていれば、それほど難しくありません。一年後には、たいいていの文章が読めるようになります。ぜひ本授業を活用して下さい。

講義名	インド・チベット地域文化論/							担当教員	棚瀬 慈郎
講義コード	1400090	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

インド仏教は、7世紀以降にヒマラヤを越えてチベットの地にもたらされた。本講義では、インド仏教について概観した上で、そのチベットにおける展開と社会的な影響について検討する。

到達目標

- (1) 仏教の基本的な概念と考え方についての知識。
- (2) 仏教の歴史的な展開に関する知識。
- (3) 内陸アジアにおいて、仏教が果たしてきた役割に関する知識。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	講義内容について十分な理解を得ているか。
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜プリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	英書講読（地域文化）							担当教員	市川 秀之 / 北村 由美 / 武田 俊輔 / 塚本 礼仁
講義コード	1400105	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130REG102								

授業概要

地域文化学科の教員が専門とする分野に関する英書の講読を行うことを通じて、各分野の文献の読解力を高める。毎回、受講生を指名し、テキストの内容について発表してもらうため、必ず予習をしてくること。

到達目標

(1)地域文化学科の専門分野について、平易な英語文献を読解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	前期試験（1回）35%、後期試験（1回）35%の合計で評価する。
レポート課題		
上記以外	30	授業中の発表による。

授業外学習

前期・後期1度の試験。また毎回の講義内で発表してもらうため、事前の予習を宿題として課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは各教員より配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英書講読（地域文化）							担当教員	市川 秀之 / 北村 由美 / 武田 俊輔 / 塚本 礼仁
講義コード	1400105	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130REG102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	文化人類学に関する英書講読 1	特にアジア地域研究
第2回	文化人類学に関する英書講読 2	特にアジア地域研究
第3回	文化人類学に関する英書講読 3	特にアジア地域研究
第4回	文化人類学に関する英書講読 4	特にアジア地域研究
第5回	文化人類学に関する英書講読 5	特にアジア地域研究
第6回	文化人類学に関する英書講読 6	特にアジア地域研究
第7回	文化人類学に関する英書講読 7	特にアジア地域研究
第8回	文化人類学に関する英書講読 8	特にアジア地域研究
第9回	文化人類学に関する英書講読 9	特にアジア地域研究
第10回	文化人類学に関する英書講読10	特にアジア地域研究
第11回	文化人類学に関する英書講読11	特にアジア地域研究
第12回	文化人類学に関する英書講読12	特にアジア地域研究
第13回	文化人類学に関する英書講読13	特にアジア地域研究
第14回	文化人類学に関する英書講読14	特にアジア地域研究
第15回	文化人類学に関する英書講読15	特にアジア地域研究
第16回	建築学に関する英書講読 1	建築学に関する英書を講読する。
第17回	建築学に関する英書講読 2	建築学に関する英書を講読する。
第18回	建築学に関する英書講読 3	建築学に関する英書を講読する。
第19回	建築学に関する英書講読 4	建築学に関する英書を講読する。
第20回	民俗学に関する英書講読 1	民俗学に関する英書を講読する。
第21回	民俗学に関する英書講読 2	民俗学に関する英書を講読する。
第22回	民俗学に関する英書講読 3	民俗学に関する英書を講読する。
第23回	民俗学に関する英書講読 4	民俗学に関する英書を講読する。
第24回	社会学に関する英書講読 1	文化社会学に関する英書を講読する。
第25回	社会学に関する英書講読 2	文化社会学に関する英書を講読する。
第26回	社会学に関する英書講読 3	文化社会学に関する英書を講読する。
第27回	社会学に関する英書講読 4	文化社会学に関する英書を講読する。
第28回	地理学に関する英書講読 1	
第29回	地理学に関する英書講読 2	
第30回	地理学に関する英書講読 3	

担当者から一言

講義名	近江商人論							担当教員	宇佐美 英機
講義コード	1400230	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HIS207								

授業概要

この授業では、近世商人の一類型である近江商人の営為について講義します。現在、巷間では日本におけるCSR(企業による社会的貢献)の源流として近江商人が再評価されています。しかし、それらの言説の中には、学術的に問題があるものも少なくありません。授業では斯学における最新の研究をもとにして近江商人の実態を明らかにし、その史実と歴史的意義を解説します。

講義は当然のことですが、近世期の近江国の歴史にとどまらず、近現代の近江商人系企業の話に及びますので、少なくとも江戸時代以降の日本の歴史について事前に知識を蓄えておくとともに、商業に関わる語彙についても経済・経営学の辞典などを繙いておいてもらう必要があります。

また、配布する史料などは江戸時代の文章がほとんどですから、古文を読み解く力も涵養してもらいたいと思います。滋賀県出身ではない学生諸氏は、滋賀県の地図を手元においておくとうれしいと思います。

授業に際して中心となるキーワードは、講義概要のなかに「 」で示していますので、それらの意味する内容を理解してもらいたいと希望します。

到達目標

- (1) 近江商人の概念とその商い方法について理解する。
- (2) 近江商人の経営理念の特徴について理解する。
- (3) 近江商人の経営遺産、すなわち何が継承され、何か断絶したのか理解する。
- (4) 現代まで続く近江商人系企業は、なぜ永続できたのか、衰退した商家はなぜなのか、その原因 を理解する。
- (5) 近江商人を輩出した近江国は、どのような特質をもった社会であったのか理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	到達目標(1)~(5)について、論述式(50%)と語句説明(20%)の試験を行う。
レポート課題	30%	滋賀県内の近江商人発生の里(東近江市五個荘・近江八幡市・日野町・豊郷町)に所在する博物館・資料館などを見学し、そこで学んだ知見をレポートする。
上記以外		

授業外学習

授業時には大部のプリント史料を配布するが、それらを熟読(予習・復習)していることを前提で講義を進める。また、参考文献一覧については事前に配布するので、それらのいくつかには目を通しておく。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	近江商人三方よし経営に学ぶ	末永國紀	ミネルヴァ書房	9784623059430
2	初代伊藤忠兵衛を追慕する一在りし日の父、丸紅、そして主人一	宇佐美英機	清文堂出版	9784792409746
3				

授業中にプリントを配布する。

前提学力等

日本近世・近現代の歴史、および古文解読について、大学受験程度の知識を有していることが望ましい。

履修資格

講義名	環琵琶湖文化論実習（地域文化）						担当教員	学科教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 武田 俊輔 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二 / 横田 祥子	
講義コード	1400360	単位数	1	開講期	通年	授業種別			実習
ナンバリング番号	130REG101-C								

授業概要

滋賀県の歴史、文化、生活を対象とする実習である。地域、テーマ別に班を編成し、事前学習、宿泊をともなう現地での実習、さらに報告書の作成を行う。

到達目標

フィールドワークを行うことによって、以下の目標を達成する。

- (1) 地域の歴史、文化、生活への関心を深めることができる。
- (2) 地域を調査するための手法を身につけることができる。
- (3) 報告書のまとめ方を身につけることができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1) 地域の歴史、文化、生活への関心を深めることができる (35%)、 (2) 地域を調査するための手法を身につけることができる (35%)、 (3) 報告書のまとめ方を身につけることができる (30%) については、環琵琶湖文化論実習の報告書原稿 (100%) で評価す

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	大学的滋賀ガイド	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科編	昭和堂	978-4-8122-1141-0
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

各班担当者の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	環琵琶湖文化論実習（地域文化）							担当教員	学科教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 武田 俊輔 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二 / 横田 祥子
講義コード	1400360	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	130REG101-C								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	各班の実習内容を紹介し、班分けを行う。
第2回	班別学習 その1	各班に分かれて、学習を行う。内容・スケジュールは、各班の担当教員より説明する。
第3回	班別学習 その2	
第4回	班別学習 その3	
第5回	班別学習 その4	
第6回	班別学習 その5	
第7回	班別学習 その6	
第8回	班別学習 その7	
第9回	班別学習 その8	
第10回	班別学習 その9	
第11回	班別学習 その10	
第12回	班別学習 その11	
第13回	班別学習 その12	
第14回	班別学習 その13	
第15回	班別学習 その14	
第16回	班別学習 その15	
第17回	班別学習 その16	
第18回	班別学習 その17	
第19回	班別学習 その18	
第20回	班別学習 その19	
第21回	班別学習 その20	
第22回	班別学習 その21	
第23回	班別学習 その22	
第24回	班別学習 その23	
第25回	班別学習 その24	
第26回	班別学習 その25	
第27回	班別学習 その26	
第28回	班別学習 その27	
第29回	班別学習 その28	
第30回	報告書の完成	班別学習の成果を報告書にまとめて完成させる。

担当者から一言

講義名	漢文講読							担当教員	田中 俊明
講義コード	1400370	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	130REG103								

授業概要

漢文史料の読解を進める。とりあえず、『資治通鑑』という歴史書をテキストにして、その訓読・現代語訳・註解を事前に準備して、授業のときに、指名をうけて、その内容を発表する。テキストには、句読点と固有名詞の傍線があり、わかりやすい(返り点などはない)。

到達目標

中国・朝鮮・日本における前近代の史料は、漢文史料がかなりの割合を占める。そうした漢文史料の、基礎的な読解方法に関する知識を身につけることをめざす。やさしい文章であれば、自分で読むことができるようになることをめざす。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	上記、小テストとするもの。2回実施する。レポート課題に対応する。
上記以外	60	日々の講読の準備・読解態度・そのでき、など。講読なので、毎回出て、指名されて答えることが必要。その対応も含める。

欠席が多くても、評価される場合もあるが、難しいと思う。まずは出席し、こちらが指摘したことを理解し、身につけ、自らの訓読・現代語訳・註解作業に活かす必要がある。

授業外学習

上記のように、自ら訓読・現代語訳・註解を行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは、上記のとおり、コピー配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高校の漢文レベルは知っておく、身につけておく必要がある。

履修資格

講義名	漢文講読							担当教員	田中 俊明
講義コード	1400370	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	130REG103								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	テキストの配布と解説	とりあえず、上記の史料を配布するが、希望があれば、別の史料でも可である。その場合、受講生と相談して、テキストを選定する。
第2回	進め方の説明	受講生が選択したテキストの場合は、ここで配布して、そのテキストの内容・成立についての解説、および今後の進め方を説明する。でなければ、講読を進める。
第3回	講読1（こちらで選定した史料でよければ、番号がずれる）	以下、実際に講読を進める
第4回	講読2	同上
第5回	講読3	同上
第6回	講読4	同上
第7回	講読5	同上
第8回	講読6	同上
第9回	講読7	同上
第10回	講読8	同上
第11回	講読9	同上
第12回	講読10	同上
第13回	講読11	同上
第14回	講読12	同上
第15回	講読13・小テスト	同上
第16回	講読14	同上
第17回	講読15	同上
第18回	講読16	同上
第19回	講読17	同上
第20回	講読18	同上
第21回	講読19	同上
第22回	講読20	同上
第23回	講読21	同上
第24回	講読22	同上
第25回	講読23	同上
第26回	講読24	同上
第27回	講読25	同上
第28回	講読26	同上
第29回	講読27	同上
第30回	講読28・小テスト	同上

担当者から一言

講義名	基層文化論							担当教員	中井 均
講義コード	1400390	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER106								

授業概要

日本という国を形成する基層文化は縄文時代・弥生時代・古墳時代・飛鳥～奈良時代に求めることができる。その発展過程の中で、自然採集を基盤とした縄文時代から農耕社会となった弥生時代を経て、統一国家が出現する古墳時代、中国を範とした律令国家としての飛鳥～奈良時代にかけて、その変遷の画期をとらえながら、日本の国家形成の様子を考古学の資料を中心に、社会構造や文化について学ぶ。なお、室町時代に成立する住宅様式や、土器・陶磁器の文化史についても最後に触れておきたい。

到達目標

- (1)各時代の社会構造や文化を学び、日本の基層文化がどのように形成されたかが理解できる
(2)日本の古代～中世社会の時代の流れが理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	試験は記述式とし、その評価基準は問いに対して授業で学んだ歴史用語や語句を用いて的確に表現されているかで判断する
レポート課題	40	レポートは手書きとし、必ず自分の感想を述べること
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	近世近江論							担当教員	水本 邦彦
講義コード	1400560	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HIS201-C								

授業概要

本講義では、古絵図や古文書を題材にして、近世の近江国（滋賀県）の地に展開していた歴史社会を復元し、観察する。安土を始めとする城下町、大名・旗本など多数の領主たち、1500にのぼる村社会、各地を結ぶ街道・舟運など、具体的なテーマに沿って作業を進める。

到達目標

近江の地に展開した近世社会の特徴を説明できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	講義の内容を理解し、課題を消化しているか。
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	滋賀県の歴史	畑中誠治ほか	山川出版社	4-634-32250-1
2				
3				

講義中にプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	芸術学							担当教員	亀井 若菜
講義コード	1400600	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HIS103								

授業概要

この授業では、造形芸術である「美術」や、造形芸術の歴史の体系である「美術史」について考える。「日本美術史」という体系は、明治時代に日本のナショナルアイデンティティを見せるものとして作られた。その中では、その目的に沿う形で様々な作品が評価され、語られてきた。本講義ではそれを見直すべく、具体的な例として、正倉院宝物と二つの絵巻作品を取り上げ、その言説のあり方を考え、作品の新たな分析・解釈の仕方を提示する。さらに、従来の「日本美術史」とは異なる文脈で発信されているアートのいくつかを紹介する。授業で取り上げる二つの絵巻は、滋賀県の桑実寺に所蔵される「桑実寺縁起絵巻」と、その比較作品となる「酒伝童子絵巻」である。「桑実寺縁起絵巻」は、近江の桑実寺に逃げてきていた將軍足利義晴によって1532年に作られた。その中には近江の安土山付近の景色がリアルに描かれている。中世美術の中でも特筆すべき表現が展開するこの絵巻の絵を丁寧にしながら、実景の写真と絵を比較し、その意味を読み解いていく。滋賀県の美術品を知るという点でも意味のある授業としたい。

授業では、プロジェクターで作品の全体および細部を毎回映し、作品の表現を詳しく見ながら、その意味を考えていく。

到達目標

- (1) 授業で提示する美術作品や美術に関わる諸問題に対し、その内容を理解し、自分の視点で考えられるようになる。
- (2) 美術作品に関心を持ち、美術に表現されたものの意味を自分自身で考えられるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	到達目標(2)については、レポート課題を出す。
上記以外	40	到達目標(1)については、レスポンスカードに書いてもらい、自分の意見を述べてもらう。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	表象としての美術、言説としての美術史	亀井若菜	ブリュッケ	4-434-03644-0
2	交差する視線 美術とジェンダー 2	鈴木杜鸞子, 馬淵明子, 池田忍, 金恵信 編	ブリュッケ	4-434-07049-5
3				

前提学力等

履修資格

講義名	現代ジャーナリズム論							担当教員	関根 英爾
講義コード	1400650	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330SOC304, 335LAH309								

授業概要

メディアを取り巻く環境に大きな変化が起きている。コンピュータ、インターネットという強力なテクノロジーの進化は、現代ジャーナリズムに構造的な変革を迫る勢いを見せる。
近代市民社会の形成とともに生まれ、育ったジャーナリズム。いま「100年に一度」ともいわれる変化の時代にあつて、ジャーナリズムとは何か。なんのためにあるのか。そこには、どんな問題が生じているのか。ジャーナリストはどのような職業で、その本分とはいかなるものか。あらためてその存在意義が社会的にも歴史的にも問われている。
本講義では、主として既存マスメディアの軸である新聞とテレビ放送を中心に、日本におけるジャーナリズムの現状と課題について現実、倫理、歴史、理論の領域から考察する。その際、一般にあまりよく知られていない報道・編集の仕組みや情報収集の最前線である取材現場の実像を紹介し、国内外で生起する時事問題、自らの記者体験なども織り交ぜ進める。
新たな「ネット時代」のなかで、ジャーナリズム、ジャーナリストのあり方、生き方はどうあるべきか。その機能と役割、責任は変わるのか、それとも変わらないのか。「ジャーナリズムは生きる」をテーマに追究することにする。
講義は、配布するレジュメと資料をもとに行う。講義テーマは時の政治、経済、社会などの動きによって変更することもある。

到達目標

- (1) 時々刻々推移する国内外の「できごと」への関心、感性を高める。
- (2) 新聞を読む習慣とメディア・リテラシー（読み解く力）を身につける。
- (3) 情報の収集、発信、分析、評価における「倫理」の重みを知る。
- (4) ジャーナリズムの思想と行動をきちんとつかむ。
- (5) 「民主主義と言論の自由」という普遍的価値への理解を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	期末レポート試験を行う。テーマは事前に提示する。期限までに教務部に提出する。
レポート課題		
上記以外	30%	レスポンスペーパーで講義内容に関する意見、提言、感想などを求める。

期末レポートとレスポンスペーパーで総合的に判断する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジャーナリズムの思想	原 寿雄	岩波書店	ISBN4-00-430494-6
2	ジャーナリズムの可能性	原 寿雄	岩波書店	ISBN978-4-00-431170-6
3	現代メディア史	佐藤 卓己	岩波書店	ISBN4-00-026015-4

前提学力等

履修資格

講義名	現代中国論							担当教員	横田 祥子
講義コード	1400690	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130EXC102								

授業概要

本授業では現代東アジア世界の中国、台湾、香港を中心に、その政治と社会の歴史的特徴と相互依存関係を解明し、さらに国際環境の東アジアにおける特徴を分析して、政治体制からみた新たな東アジア世界像を検討する。中国、香港、台湾の全体像を把握するために、政治体制や経済政策の変化に関するトピックを取り上げる。

到達目標

- (1) 政治体制の転換の背景と要因を理解する。
- (2) 中国・台湾・香港の政治体制の相違を理解し、三者の政治的・歴史的関係を理解する。
- (3) 中国で起きている社会問題について理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 政治体制の転換の背景と要因を理解し、説明できる。(20%) (2) 中国・台湾・香港の政治体制の相違を理解し、三者の政治的・歴史的関係を把握できる。(20%) (3) 今後の日中関係について、自分の展望を述べるができる。(10%)
レポート課題	40	中国現代史・中国の現代の社会情勢に関し、自らが関心あるトピックについて情報を収集し、まとめることができる。
上記以外	10	授業の内容を理解し、発展的な質問ができる。

授業外学習

大学図書館には、中国の歴史や地理、各地の文化描いた映像資料や、歴史の激動を背景にした映画が多数ありますので、ぜひ鑑賞してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ハンドブック 現代中国第四版	愛知大学現代中国学部	あるむ	9784863330634
2	現代中国を知るための60章	高井潔司, 遊川和郎	明石書店	4750317721
3	台湾：人間・歴史・心性	戴國輝	岩波書店	400430041X

前提学力等

履修資格

講義名	考古学							担当教員	中井 均
講義コード	1400740	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER101								

授業概要

考古学とは、過去の人類が残した物質的資料としての「遺跡」と「遺物」という土の中から発掘されたモノを対象として歴史を組み立てていく学問である。考古学の独自性は遺構、遺物を実測し、分類することによって人類の残したモノを分析することにある。まずその方法論とこれまでの研究史を学び、さらには考古学に必要な関連諸科学を学ぶことによって考古学の基礎を培うこととする。そして具体的に考古学から明らかとなった日本列島の旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、歴史時代を概観する。また考古学は歴史を解明するための方法論であり、決して特定の時代を対象とするものではない。そこで考古学が明らかにした中・近世の遺跡や遺物についても検証する

到達目標

- (1) 考古学が歴史研究の方法論であることを理解し、物質的資料の分類、整理ができる
- (2) 考古学によって明らかにされた歴史の変遷を理解することができる
- (3) モノを測ることによって資料化することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	試験は記述式とする。その評価基準は授業で学んだ歴史的用語や語句を用いて的確に答えられているかで判断する
レポート課題	40	レポートは手書きとし、必ず自分の感想を述べること
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古学実習							担当教員	定森 秀夫 / 中井 均
講義コード	1400741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HER203								

授業概要

考古学における実践的技術習得のための実習である。考古学の研究や学習には、基礎的技術の習得が欠かせない。地下から出土する遺構や遺物はその発掘記録を確実に作成するのが第一段階である。第二段階としては洗浄・修復で、その後、図化等（拓本・実測・写真・製図を含む）の第三段階を経て、初めて客観的資料となる。これら資料を用いて歴史を研究するのが考古学である。将来、考古学的方法を用いて研究・学習を進めるための実践的な技術力を習得する。したがって、小人数で実習を行うため、受講に当たっては、将来これらの技術を必要とするものが受講されたい。

到達目標

考古学の基本的な技術を理解し、身につけること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	実習成果物としての実測図や拓本等提出資料
上記以外	30	実習態度等

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『発掘調査のてびき』	文化庁文化財部記念物課監修・奈良文化財研究所	同成社	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古学実習							担当教員	定森 秀夫 / 中井 均
講義コード	1400742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HER204								

授業概要

考古学における実践的技術習得のための実習である。考古学の研究や学習には、基礎的技術の習得が欠かせない。地下から出土する遺構や遺物はその発掘記録を確実に作成するのが第一段階である。第二段階としては洗浄・修復で、その後、図化等（拓本・実測・写真・製図を含む）の第三段階を経て、初めて客観的資料となる。これら資料を用いて歴史を研究するのが考古学である。将来、考古学的方法を用いて研究・学習を進めるための実践的な技術力を習得する。したがって、小人数で実習を行うため、受講に当っては、将来これらの技術を必要とするものが受講されたい。

到達目標

考古学の基本的な技術を理解し、身につけること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	実習成果物としての実測図や拓本等提出資料
上記以外	30	実習態度等

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『発掘調査のてびき』	文化庁文化財部記念物課監修・奈良文化財研究所	同成社	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古学特論/							担当教員	定森 秀夫
講義コード	1400750	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

考古学は歴史学の一分野であるが、研究対象・研究方法において文献史学などとは異なる。本授業は、遺跡・遺構・遺物を研究対象とする考古学の方法論などの概要、および日本考古学の概要を理解することを目的とする。まず最初に、考古学の基本、考古学の方法論などの概要を講義する。そして、日本考古学の歩みとこれまでの成果を概説する。現在、日本考古学は旧石器時代から現代までを研究対象としており、発掘調査の進展によって、時代ごとに大きな成果をあげつつある。時代ごとに、考古学の成果と問題点を概説していくが、場合によっては主要な遺跡を取り上げたり、特殊な遺構・遺物を取り上げたりして、それらに関する詳しい内容を講義する。また、適宜スライド・ビデオなどを利用して理解を深める。

到達目標

1. 考古学の方法論の基本を理解する 2. 日本考古学史と旧石器時代から現代までの日本考古学の内容を理解する 3. 周辺諸国の考古学の成果と比較検討して、アジアの中の日本文化を理解する

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	小レポート2回(20%)と期末レポート1回(20%)の計3回。レポート内容および文章構成などの作文能力を評価。
上記以外	60	レスポンスカードを兼ねた出席カードで、出席を確認。出席カード代筆は、評価で0点となる。

10回以上出席で、レポートを3回提出して評価をするので、9回以下の出席とレポート2回以下の提出は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古学特論 A							担当教員	中井 均
講義コード	1400751	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HER301								

授業概要

考古学は、過去人類が残した物質的資料としての「遺跡」と「遺物」というモノから歴史を分析する学問である。通常、考古学というと旧石器時代、縄文時代、弥生時代といった文字のない原始時代の歴史を分析するものと思われがちであるが、実は考古学は時代を超えた人類の歴史全体を研究する方法論である。この特論では、日本考古学のなかで近年めざましい研究成果のある中世から近世の考古学について、都市、集落、寺院、城館、墓などの遺跡と、そこから出土する様々な遺物について、流通も踏まえて分析をおこなうものである。また、近代以降を対象とした考古学についても触れておきたい

到達目標

- (1) 考古学の方法論について説明することができる
- (2) 古代、中世、近世の社会構造を考古学から説明することができる
- (3) 古代、中世、近世の特徴を読み解き、それに対する自らの考えを述べるることができる
- (4) 代表的な城跡を見学し、その特徴について批評することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	試験は記述式とする。評価基準は授業で学んだ歴史用語や語句を用いて、問いに対して的確に答えられているかで判断する
レポート課題	40	レポートは手書きとする。必ず感想を述べること
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古学特論B							担当教員	定森 秀夫
講義コード	1400752	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HER302								

授業概要

考古学は歴史学の一分野であるが、研究対象・研究方法において文献史学などとは異なる。本授業は、遺跡・遺構・遺物を研究対象とする考古学の方法論などの概要、および日本考古学の概要を理解することを目的とする。まず最初に、考古学の基本、考古学の方法論などの概要を講義する。そして、日本考古学の歩みとこれまでの成果を概説する。現在、日本考古学は旧石器時代から現代までを研究対象としており、発掘調査の進展によって、時代ごとに大きな成果をあげつつある。時代ごとに、考古学の成果と問題点を概説していくが、場合によっては主要な遺跡を取り上げたり、特殊な遺構・遺物を取り上げたりして、それらに関する詳しい内容を講義する。また、適宜スライド・ビデオなどを利用して理解を深める。

到達目標

1. 考古学の方法論の基本を理解する 2. 日本考古学史と旧石器時代から現代までの日本考古学の内容を理解する 3. 周辺諸国の考古学の成果と比較検討して、アジアの中の日本文化を理解する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	小レポート2回(20%)と期末レポート1回(20%)の計3回。レポート内容および文章構成などの作文能力を評価。
上記以外	60	レスポンスカードを兼ねた出席カードで、出席を確認。出席カード代筆は、評価で0点となる。

10回以上出席で、レポートを3回提出して評価をするので、9回以下の出席とレポート2回以下の提出は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古地理実習 /						担当教員	中井 均 / 石川 慎治 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 塚本 礼仁 / 濱崎 一志	
講義コード	1400760	単位数	1	開講期	後期	授業種別			実習
ナンバリング番号									

授業概要

地域文化学科で学び研究することになる専門分野に関して、基礎的な知識や研究の手法を学ぶ。学生は二つのグループに分かれ、授業ごとに学科教員全員の指導を受けることになる。

到達目標

(1)専門分野に関する基礎的な知識や研究の手法を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	専門分野に関する基礎的な知識や研究の手法を身につけることができるについては、第2回～第15回の毎回の小レポートで評価する(100%)。100点満点で60点以上を合格とする。
上記以外		

授業外学習

第2回より、毎回各分野のテーマに沿った小レポートを提出してもらおう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学的滋賀ガイド	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科編	昭和堂	978-4-8122-1141-0
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古地理実習 A /							担当教員	定森 秀夫 / 中井 均
講義コード	1400770	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業概要

考古学における実践的技術習得のための実習である。考古学の研究や学習には、基礎的技術の習得が欠かせない。地下から出土する遺構や遺物はその発掘記録を確実に作成するのが第一段階である。第二段階としては洗浄・修復で、その後、図化等（拓本・実測・写真・製図を含む）の第三段階を経て、初めて客観的資料となる。これら資料を用いて歴史を研究するのが考古学である。将来、考古学的方法を用いて研究・学習を進めるための実践的な技術力を習得する。したがって、小人数で実習を行うため、受講に当っては、将来これらの技術を必要とするものが受講されたい。

到達目標

考古学の基本的な技術を理解し、身につけること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	実習成果物としての実測図や拓本等提出資料
上記以外	30	実習態度等

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『発掘調査のてびき』	文化庁文化財部記念物課監修・奈良文化財研究所	同成社	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古地理実習 A /							担当教員	定森 秀夫 / 中井 均
講義コード	1400770	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	発掘調査技術と報告書作成	発掘調査技術と報告書作成に関する概説
第2回	水準点測量1	レベルを使用して標高を移動する方法を体徳する。
第3回	水準点測量	レベルを使用して標高を移動する方法を体徳する。
第4回	グリッド設定	トランシットを使用してグリッド設定の方法を体徳する。
第5回	地形・遺構の測量(平板測量)1	平板測量
第6回	地形・遺構の測量(平板測量)2	平板測量
第7回	地形・遺構の測量(平板測量)3	平板測量
第8回	地形・遺構の測量(平板測量)4	平板測量
第9回	地形・遺構の測量(平板測量)5	平板測量
第10回	写真撮影(写真撮影の基本)1	写真撮影
第11回	写真撮影(写真撮影の基本)2	写真撮影
第12回	写真撮影(写真撮影の基本)3	写真撮影
第13回	報告書作成の実際(報告書の構成と原稿作成)1	報告書作成の実際
第14回	報告書作成の実際(挿図レイアウト)2	報告書作成の実際
第15回	報告書作成の実際(図版レイアウト)3	報告書作成の実際
第16回	考古学実習の目的・必要性	実測・拓本等の意義
第17回	土器の実測と観察	土器の実測と観察
第18回	土器の実測と観察	土器の実測と観察
第19回	遺構の実測	遺構の実測
第20回	遺構の実測	遺構の実測
第21回	遺構の実測	遺構の実測
第22回	遺構の実測	遺構の実測
第23回	瓦・土器の拓本と観察	瓦・土器の拓本と観
第24回	瓦・土器の拓本と観察	瓦・土器の拓本と観
第25回	瓦・石器の実測と観察	瓦・石器の実測と観察
第26回	瓦・石器の実測と観察	瓦・石器の実測と観察
第27回	瓦・石器の実測と観察	瓦・石器の実測と観察
第28回	製図・レイアウト	製図・レイアウト
第29回	製図・レイアウト	製図・レイアウト
第30回	講評、その他	講評
担当者から一言		

講義名	考古地理実習 B /							担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1400780	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業概要

地理学による地域分析では、収集したデータを統計的に処理し、さらに可視化して、現象を解釈・考察する。本授業の前半15回は、多変量解析とGISを融合した実習をおこない、「数値データを可視化(地図化)する」ための基礎的技能を身につける。後半15回は、アンケート調査とGISを融合した実習をおこない、「質的データを可視化(地図化)する」ための基礎的技能を身につける。また、前半・後半ともに、終盤の数回を使って、独自のデータを用いた地域分析プレゼンテーションをまとめる。

到達目標

- (1)数値データ・質的データを統計的手法によって解析することができる。
- (2)GISソフトウェアを操作し、データ解析の結果を地図化することができる。
- (3)論理的なプレゼンテーションを行うことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	前半・後半の地域分析プレゼンテーションの報告内容による。到達目標(1)20%(前半10%・後半10%)、到達目標(2)20%(同)、到達目標(3)10%(前半5%・後半5%)とする。
上記以外	50	実習成果物による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	統計学の図鑑	涌井良幸ほか	技術評論社	978-4-7741-7331-3
2	地域分析ハンドブック	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
3	MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座 第3版	後藤真太郎ほか	古今書院	978-4-7722-4162-5

適宜プリントを配布する。

前提学力等

人文地理学Bを合わせて履修することが望ましい。

履修資格

講義名	考古地理実習 B /							担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1400780	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	前半ガイダンス	
第2回	多変量解析の準備	統計学の基礎知識の確認
第3回	回帰分析 1	重回帰分析の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第4回	回帰分析 2	重回帰分析の結果の地図化
第5回	判別分析 1	判別分析の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第6回	判別分析 2	判別分析の結果の地図化
第7回	主成分分析 1	主成分分析の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第8回	主成分分析 2	主成分分析の結果の地図化
第9回	因子分析 1	因子分析の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第10回	因子分析 2	因子分析の結果の地図化
第11回	クラスター分析 1	クラスター分析の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第12回	クラスター分析 2	クラスター分析の結果の地図化
第13回	地域分析プレゼンテーション 1	グループワーク（企画、データ収集）
第14回	地域分析プレゼンテーション 2	グループワーク（分析・解釈、プレゼンテーション作成）
第15回	地域分析プレゼンテーション 3	報告会
第16回	後半ガイダンス	
第17回	アンケート調査法 1	企画、調査票作成から回収の手順などについて解説する。
第18回	アンケート調査法 2	データの入力とクリーニングについて解説し、課題実習に取り組む。
第19回	アンケート結果の集計法 1	単純集計とグラフについて解説し、課題実習に取り組む。
第20回	アンケート結果の集計法 2	クロス集計とグラフについて解説し、課題実習に取り組む。
第21回	アンケート結果の集計法 3	クロス集計とグラフについて解説し、課題実習に取り組む。
第22回	アンケート結果の分析法 1	数量化 類の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第23回	アンケート結果の分析法 2	数量化 類の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第24回	アンケート結果の分析法 3	数量化 類の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第25回	アンケート結果の分析法 4	数量化分析の結果の地図化
第26回	地域分析プレゼンテーション 1	グループワーク（企画）
第27回	地域分析プレゼンテーション 2	グループワーク（データ収集）
第28回	地域分析プレゼンテーション 3	グループワーク（集計・分析・解釈）
第29回	地域分析プレゼンテーション 4	グループワーク（プレゼンテーション作成）
第30回	地域分析プレゼンテーション 5	報告会

担当者から一言

講義名	古文書演習							担当教員	水野 章二
講義コード	1400890	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HIS203								

授業概要

歴史研究の素材となる史料には、古文書・古記録・木簡・金石文あるいは絵画史料など、多種多様なものがあるが、特に古文書はその中心的位置を占める。史料全体に対する関心と理解を深めるとともに、主として古代・中世の古文書を取りあげ、研究の基礎となる文書読解力を養う。そして文書の様式・形態・機能などの基本を学習し、あわせて文書の作成された時代・社会の特質を考える。なお授業では、古文書の写真コピーを使用する。

到達目標

- (1) 古代・中世の古文書の種類・機能やその変化を理解できる。
- (2) 古代・中世の文字・文体を読解・解釈できる。
- (3) 古代・中世の文書の作成システムや社会構造を理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	毎回の授業における読解・発表により評価する。 (1) 古代・中世の古文書の種類・機能やその変化を理解できる。 30% (2) 古代・中世の文字・文体を読解・解釈できる。 40%

授業外学習

博物館・史料館などで実際の文書を見学する機会を設ける。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	古文書学入門	佐藤進一	法政大学出版局	4-588-32001-7
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	古文書演習						担当教員	東 幸代	
講義コード	1400900	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	230HIS204								

授業概要

本演習のねらいは、近世・近代の古文書の解読を通して、くずし字解読の基礎能力を身に付けることにある。あわせて、文献史料読解能力の向上と、近世・近代社会に対する理解の深化を目指す。

到達目標

漢字の部首のくずし方をマスターする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	漢字のくずし字が読解できているか。
レポート課題		
上記以外	20	毎回の予習課題を完了しているか。 小テストの結果。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

予習を必須とする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	くずし字用例辞典	児玉幸多	東京堂出版	
2				
3				

前提学力等

日本史料講読を履修済みであること。

履修資格

講義名	自然地理学							担当教員	青木 哲哉
講義コード	1400970	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330SOC306								

授業概要

本授業では、第四紀（おおむね人類の時代で約200万年前から現在まで）の自然環境に関する自然地理学の一般的・包括的な内容を解説する。こうした内容は、自然環境と人間活動が密接に係わるため、地域文化を深く理解する上での重要な手助けとなる（人間文化学部と地域文化学科のディプロマポリシーAに関連）。また、それは教職の自然地理分野における必須内容にあたり、教職の場で直接役に立つ。

自然地理学は自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、第四紀に変化し形成されたものが少なくない。授業では、それらの中でも代表的な気候と地形に焦点をあて、気候については第四紀で最も大きい環境変化であった氷河期とその後における気候変化、地形に関しては人間の主要な生活舞台となった平野（沖積平野）とそこで頻発した洪水VS人間の闘い（水害）を扱う。これらのテーマは気候や地形以外の多角的な観点から研究されており、授業は地質や水文（河川・海洋）、植生をはじめとする他の自然環境にも言及する内容となる。さらに各テーマでは、自然地理学の研究を理解しやすくするため、研究成果だけでなく調査・分析方法にも触れる。このような授業を通して、自然環境の専門知識（用語を含む）、自然地理学の調査・分析方法、教職の自然地理分野に必要な内容などを習得してほしい。

授業は、講義形式で行い、問題を出題しながら進める。授業での問題は以前の授業内容、自然環境の基礎知識、及び自然地理学の分析方法を要する事柄などに関するもので、挙手をして答えてもらう。

到達目標

- (1) 自然地理学で使う用語とその意味を記述できるようになる。
- (2) 自然環境の専門的で基本的な内容を説明できるようになる。
- (3) 自然地理学の調査・分析方法を知識として身につけられる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	到達確認テストは到達目標(1)(2)(3)についてそれらの達成状況を試す出題となる。授業内容の理解と把握の度合いを基準に評価する。
レポート課題		
上記以外	20	授業での問題正解と授業内レポートも評価の対象となる。各授業で出題する問題には、到達目標(1)(2)(3)に係わる以前の授業内容や自然環境の基礎知識、自然地理学の分析方法を必要とする事柄などが幅広く含まれる。積極的な発言に伴う正解数に応じて、成績評価に問題正解点を加算する。

授業外学習

授業の後にノートの記事内容を見直し、授業内容を整理するとともに深くしっかり理解するよう心掛けてほしい。この復習には授業時間と同程度の時間を要する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は必要に応じて紹介する。授業でプリントを適宜配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	質的データ解析論							担当教員	武田 俊輔
講義コード	1400980	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C205, 235S0C205								

授業概要

社会調査法のうち、「量的調査法」に対して「質的調査法」として総称されるデータの収集方法と分析方法について、それぞれの方法に基づく優れた既存研究や、担当者個人の研究を例に挙げて、どのような方法がどのように研究に生かされているかを明らかにする。と共に、実際にそれぞれの調査・分析方法に関してレポート課題を与え、成果を提出してもらう。データの収集・分析方法の単なるマニュアルでなく、調査に至るまでの準備や、調査を通じて適切な問いを立ち上げるプロセスに踏み込み、質的調査の方法を習得することを目的とする。

到達目標

- (1) 先行研究や必要な統計データを収集する手段を使用できる。
- (2) 特定のテーマのインタビューにあたり、適切な調査依頼と質問項目の策定ができる。
- (3) 質問項目に基づきつつ、適切に質問項目を追加・削除してインタビューを実施できる。
- (4) 参与観察の基本的な考え方を習得できる。
- (5) 行ったインタビュー内容を、論文・報告書の作成に使えるように整理することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	以下の5回のレポートを課す。 1) 先行研究や関連資料、統計データを収集することができる(20%)。 2) インタビュー調査を適切に依頼し、また事前に適切な質問項目を設定することができる(20%)
上記以外		毎回提出してもらったレスポンスカードの内容が優れていた場合、加点を行うことがある。1回につき2点、ただし15回の授業を通して、5回以内(10点以内)とする。

レポートの提出回数が3回以下の場合、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	自分で調べる技術 市民のための調査入門	宮内泰介	岩波書店	4007001170
2	フィールドワークの技法 問いを育てる、仮説をきたえる	佐藤郁哉	新曜社	4788507889
3	よくわかる質的社会調査 プロセス編	谷富夫・山本努	ミネルヴァ書房	4623058441

授業中にレジュメやレポート執筆に必要な資料を配付する。

前提学力等

社会調査士資格認定科目(F科目。資格取得にはE科目の応用データ解析論と本科目のいずれか1つを履修すること)であり、1回生配当の社会調査論を履修済みであることが望ましい。

履修資格

講義名	社会学概論							担当教員	武田 俊輔 / 大野 光明 / 中村 好孝 / 細馬 宏通 / 丸山 真央
講義コード	1401050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130SOC102, 135SOC201								

授業概要

本講義は、社会学の基本的な思考方法、基礎概念、研究方法について概説し、あわせて社会学の主要分野の入門的な講義を行うものである。

到達目標

- (1)社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会的に理解することができるようになる。
(2)社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ること、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1)社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会的に理解することができるようになる(50%)、(2)社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ること、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる(50%)について、小レポート・中間レポート・最終レポート(合計100%)。
上記以外		

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会学 第5版	アンソニー・ギデンズ	而立書房	4880593508
2	Do! ソシオロジー 改訂版 -- 現代日本を社会学で診る	友枝敏雄他編	有斐閣	4641124965
3	社会学入門	塩原良和・竹ノ下弘久編	弘文堂	4335551401

前提学力等

高校の倫理・政治経済、現代社会、世界史、日本史で修得している程度の知識は必要だが、とくに問わない。

履修資格

講義名	社会調査実習（地域文化、人間関係）							担当教員	武田 俊輔 / 塚本 礼仁
講義コード	1401120	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320								

授業概要

社会調査・地域調査に必要とされる実践的能力の習得をめざして、受講生全員が個人であるいはグループで、質的調査の企画から報告書の作成まで、全過程をひととおり実習する。具体的には、調査方法のガイダンス、問題の設定、先行研究の精査、調査計画の策定、調査の実施、発表と討論、報告書の作成をおこなう。なおこの実習は社会調査士資格・地域調査士資格を取得する際に必要となる認定科目である。

到達目標

- (1) 先行研究、統計データ等を収集し精査することができる。
- (2) 調査計画を立案することができる。
- (3) 適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる。
- (4) 調査成果を発表し、討論することができる。
- (5) 報告書を作成することができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	(1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる(10%)、(2)調査計画を立案することができる(10%)、(3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる(10%)、(5)報告書を作成することができる(60%)については最終報告書の原稿で評価する。
上記以外	10	(4)調査成果を発表し、討論することができる(10%)については、毎回の授業内でのディスカッションへの参加で評価する。

授業外学習

夏季休暇中を中心に、授業時間外での自発的な調査活動に基づいて調査を行い、その進行状況および概要について何度も報告してもらうことになる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの工具箱	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
2				
3				

講義の中で紹介する。

前提学力等

社会調査論、社会調査方法論、社会統計学、統計学基礎、量的データ解析論 もしくは質的データ解析論、人文地理学B、地理学実習 のいずれかの単位を修得していることが望ましい。

履修資格

講義名	社会調査実習（地域文化、人間関係）							担当教員	武田 俊輔 / 塚本 礼仁
講義コード	1401120	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	実習全体のガイダンスと共に、班分けを行う。
第2回	調査方法の解説（1）	社会調査の調査方法について解説する。
第3回	調査方法の解説（2）	社会調査の調査方法について解説する。
第4回	調査方法の解説（3）	社会調査の調査方法について解説する。
第5回	先行研究の収集と読解（1）	班ごとに先行研究を収集し、読解して報告する。
第6回	先行研究の収集と読解（2）	班ごとに先行研究を収集し、読解して報告する。
第7回	先行研究の収集と読解（3）	班ごとに先行研究を収集し、読解して報告する。
第8回	調査計画の策定と発表（1）	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第9回	調査計画の策定と発表（2）	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第10回	調査計画の策定と発表（3）	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第11回	調査計画の策定と発表（4）	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第12回	現地調査（1）	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第13回	現地調査（2）	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第14回	現地調査（3）	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第15回	現地調査（4）	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第16回	調査成果の発表と討論（1）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第17回	調査成果の発表と討論（2）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第18回	調査成果の発表と討論（3）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第19回	調査成果の発表と討論（4）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第20回	調査成果の発表と討論（5）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第21回	調査成果の発表と討論（6）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第22回	追加調査（1）	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第23回	追加調査（2）	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第24回	追加調査（3）	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第25回	追加調査（4）	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第26回	報告書原稿の作成と討論（1）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第27回	報告書原稿の作成と討論（2）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第28回	報告書原稿の作成と討論（3）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第29回	報告書原稿の作成と討論（4）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第30回	報告書原稿の作成と討論（5）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。

担当者から一言

講義名	地域社会調査実習							担当教員	武田 俊輔 / 塚本 礼仁
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320								

授業概要

社会調査・地域調査に必要とされる実践的能力の習得をめざして、受講生全員が個人であるいはグループで、質的調査の企画から報告書の作成まで、全過程をひととおり実習する。具体的には、調査方法のガイダンス、問題の設定、先行研究の精査、調査計画の策定、調査の実施、発表と討論、報告書の作成をおこなう。

到達目標

- (1) 先行研究、統計データ等を収集し精査することができる。
- (2) 調査計画を立案することができる。
- (3) 適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる。
- (4) 調査成果を発表し、討論することができる。
- (5) 報告書を作成することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	(1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる(10%)、(2)調査計画を立案することができる(10%)、(3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる(10%)、(5)報告書を作成することができる(60%)については最終報告書の原稿で評価する。
上記以外	10	(4)調査成果を発表し、討論することができる(10%)については、毎回の授業内でのディスカッションへの参加で評価する。

授業外学習

夏季休暇中を中心に、授業時間外での自発的な調査活動にもとづいて調査をおこない、その進行状況および概要について何度も報告してもらうことになる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民俗芸能の伝承活動と地域生活	澁谷美紀	農山漁村文化協会	978-4-540-05325-2
2	地場産業産地の革新	上野和彦	古今書院	978-4-7722-4105-2
3	地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの工具箱	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9

講義の中で紹介する。

前提学力等

社会調査論、社会調査方法論、社会統計学、統計学基礎、量的データ解析論 もしくは質的データ解析論、人文地理学B、地理学実習 のいずれかの単位を修得していることが望ましい。

履修資格

講義名	地域社会調査実習						担当教員	武田 俊輔 / 塚本 礼仁	
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業種別			実習
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	実習全体のガイダンスと班編成をおこなう。
第2回	調査方法の解説(1)	地域・社会調査の方法、特に調査倫理、危機管理、依頼文書の作成法などについて解説する。
第3回	調査方法の解説(2)	地域・社会調査の方法、特に社会的な基本事項(インタビュー調査や質的調査における質問紙・調査票の作成、データの整理方法など)について解説する。
第4回	調査方法の解説(3)	地域・社会調査の方法、特に地理学的基本事項(統計データの入手・使用法、地形図の使用法、土地利用調査・景観調査の手法など)について解説する。
第5回	先行研究の収集と読解(1)	年度のテーマ(祭祀、地場産業)に関する先行研究(「参考図書」掲載図書も含む)を班ごとに収集し、読解して報告する。
第6回	先行研究の収集と読解(2)	年度のテーマ(祭祀、地場産業)に関する先行研究(「参考図書」掲載図書も含む)を班ごとに収集し、読解して報告する。
第7回	先行研究の収集と読解(3)	年度のテーマ(祭祀、地場産業)に関する先行研究(「参考図書」掲載図書も含む)を班ごとに収集し、読解して報告する。
第8回	調査計画の策定と発表(1)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第9回	調査計画の策定と発表(2)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第10回	調査計画の策定と発表(3)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第11回	調査計画の策定と発表(4)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第12回	調査計画の策定と発表(5)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第13回	現地調査(1)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。
第14回	現地調査(2)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。
第15回	現地調査(3)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。
第16回	調査成果の発表と討論(1)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第17回	調査成果の発表と討論(2)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第18回	調査成果の発表と討論(3)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第19回	調査成果の発表と討論(4)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第20回	調査成果の発表と討論(5)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第21回	追加調査(1)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第22回	追加調査(2)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第23回	追加調査(3)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第24回	追加調査(4)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第25回	追加調査(5)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第26回	報告書原稿の作成と討論(1)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第27回	報告書原稿の作成と討論(2)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第28回	報告書原稿の作成と討論(3)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第29回	報告書原稿の作成と討論(4)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第30回	報告書原稿の作成と討論(5)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
担当者から一言		

講義名	社会調査方法論							担当教員	大野 光明
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C204, 233MKD281, 235S0C203								

授業概要

本講義では、社会調査の企画・設計から資料・データの収集と整理までの具体的な過程と方法を学び、自分で調査できるだけの具体的な調査技術を身につけることを目的とする。量的調査については、質問紙調査の方法を修得することに重点を置き、具体的には、調査の企画・設計、仮説構成、調査方法の選定（全数調査と標本調査）、標本抽出（無作為抽出、標本数・標本誤差の理解）、質問文・質問紙の作成、調査の実施（質問紙の配布・回収の方法）、収集されたデータの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング）について学ぶ。質的調査については、インタビュー調査の方法を学び、面接調査の実際とフィールドノートの作成方法を修得する。講義の中では、質問紙の作成等においてグループ学習を取り入れることを考えている。

到達目標

- (1) 調査目的・方法・手順および調査問題の選択と定式化について理解することができる。
- (2) 社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく具体的な方法が理解できる。
- (3) 質問紙の作成についての技術と能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標(1)、(2)、(3)について、最終試験を実施して評価する。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標(1)と(2)について、授業中に数回の小課題を出して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。授業中にプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	社会調査論							担当教員	中井 治郎
講義コード	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130SOC103, 133LVD107, 135SOC202								

授業概要

社会調査とは、社会事象を人間の社会的・生活連関における意味に即して調査することをいう。本講義では、現代社会において社会的現実を知る有力な手段である社会調査の概要、歴史、種類、問題点など、基本的事項を概説するとともに、その意義について考える。

到達目標

- (1) 社会調査の分類や倫理に関する基本的事項が理解できる。
- (2) 社会調査の歴史や手法に関する知識と理解力を身につけることができる。
- (3) 国勢調査の特徴と課題について自らの考えを述べるができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標(3)については、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標(1)(2)については、5回程度授業中に小レポートを実施する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。ただし、正当な事由があると認められる場合は考慮するので、事前または事後にその旨申し出ること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。授業中にプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	社会変動論							担当教員	丸山 真央
講義コード	1401180	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330SOC301-C, 335SOC306-C								

授業概要

社会変動論は、数十年、時に百年単位で社会の変化を捉える、社会学の基本的な発想の根幹をなす研究領域である。本講義では、村落・地域社会という具体的な空間や場所をめぐって社会変動がどのように現象し展開したのかを学ぶ。講義前半では村落の近代化を、後半では今日の地域社会が直面する変動の諸相を概観する。本講義を通じて、社会変動の基礎理論を学ぶとともに、村落・地域社会に関する社会的アプローチの基本を身につける。

到達目標

- (1) 社会変動の基本的な考え方や概念を理解する。
- (2) 地域社会の具体的な社会的現象を社会変動論の観点から捉えることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30%	レポート課題を通じて、到達目標の(1)と(2)についての理解度を評価する((1)15%、(2)15%)。
上記以外	70%	授業中・授業外の小課題を通じて、到達目標の(1)と(2)についての理解度を評価する((1)30%、(2)40%)。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。レジュメ等を授業中に配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	むらの社会を考える	日本村落社会研究会編	農文協	
2	地域社会学講座1～3	地域社会学会編	東信堂	
3	新版キーワード地域社会学	地域社会学会編	ハーベスト社	

前提学力等

履修資格

講義名	人文地理学 A							担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1401500	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130SOC105								

授業概要

地理学は、地表面で見られる現象が起こる空間的・地域的メカニズムの解明を目指してきた。人文地理学とは、地域の人口、民族、社会・文化、産業、集落（都市・農村）など、人間活動に由来するテーマを分析し、上記の目標にアプローチしようとする分野である。本講義では、人文地理学の基礎理論を紹介し、できるだけ多くの具体例で検証を加えながら、地理的現象の発生および変容のしくみについて考えていきたい。

到達目標

- (1) 世界・日本の地域問題について、地理学の理論を用いて考察することができる。
- (2) 世界・日本の地域問題について、統計データから特徴を読み取ることができる。
- (3) 世界・日本の地域問題について、地図から特徴を読み取ることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1)(2)(3)それぞれ20%。出題方針と採点基準は授業にて通知する。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標(1)(2)(3)のいずれか、または複数が関係する宿題を課す。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特定の教科書は用いず、毎回の配布資料に各回の参考図書などを示す。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地理学基礎シリーズ1 地理学概論	上野和彦ほか	朝倉書店	978-4-254-16816-7
2				
3				

適宜プリントなどを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	人文地理学 B							担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1401510	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C211								

授業概要

コンピュータの普及にともない、GIS（地理情報システム）によって可視化された地理空間情報は、社会に広く浸透しつつある。例えば、自治体によるハザードマップの発行、警察の犯罪発生地点データの一般公開、ビジネス界におけるエリア・マーケティングなどのように、各方面で「場所」と「情報」を結びつけるGISが活用されてきた。本講義では、ソフトウェアを用いた実習も取り入れつつ、GISの理論と実践について解説する。

到達目標

- (1) GISのしくみを理解し、地理データを探索・収集することができる。
- (2) GISソフトウェアを操作し、地理的データを地図化することができる。
- (3) 自作の主題図をもとに地域問題を説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	オリジナルの主題図（第14・15回の授業で作成）を含む地域分析レポート。到達目標（1）（2）（3）それぞれ20%とする。
上記以外	40	毎回の作業成果物による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座	後藤真太郎ほか	古今書院	978-4-7722-4162-5
2	フリーGISソフト MANDARA/パーフェクトマスター	谷 謙二	古今書院	978-4-7722-8109-6
3				

適宜プリントなどを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	西洋史概説							担当教員	北村 知之
講義コード	1401750	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH201								

授業概要

高校の世界史で学んだヨーロッパ史を踏まえながら、特に美術に焦点を当てて、古代ギリシアから近代にいたるヨーロッパ世界の歴史的展開を概観し、その変遷と意義について解説する。
講義では視覚教材を多用して西洋美術の傑作の数々を紹介するので期待してもらいたい。

到達目標

西洋美術においてそれぞれの時代を代表する作品の歴史的意義を理解し、論じられるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		下記参照
レポート課題		下記参照
上記以外		下記参照

3日間の集中講義なので、初日と2日目に宿題としてレポートを課し、最終日に試験を行う。これらを総合的に評価して成績をつける。

授業外学習

毎日レポートの宿題を課すので、復習をしっかりとってもらいたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高校で学んだ世界史について、その大まかな輪郭を頭に入れておくことが望ましい。

履修資格

講義名	組織とネットワークの社会学							担当教員	岩館 豊
講義コード	1401790	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330S0C302, 335S0C309								

授業概要

組織とネットワークは社会を構成するきわめて重要な要素である。たとえば、企業、学校、役所、コンビニなどのフランチャイズ・ネットワーク、インターネットで結びつくリアル/バーチャルなコミュニティ等々を抜きに現代社会を語ることは不可能である。また、社会そのものの存在を実感することは困難でも、組織とネットワークであればその存在を具体的に可視的なものとして認識することはさほど難しくない。したがって、組織とネットワークは、社会というつかみどころのない対象を捉えるための格好の切り口または出発点になりうる。このような問題意識のもとで近代以降の組織とネットワークの特徴を考察することによって、近現代社会の構造と変動を理解するとともに、現代社会の分析に役立つ社会学的知識・概念・センスを身につけることがこの授業の目的である。

授業では、官僚制化と脱官僚制化のダイナミズムを軸としながら、組織とネットワークの歴史の変遷を見ていく。概念と理論について説明するだけでなく、具体的な事例を紹介するための写真、映像、新聞記事などを積極的に活用しながら授業を進める。

到達目標

- (1) 近代以降の組織とネットワークに関する基礎的な知識を得る
- (2) 組織とネットワークの考察を通して、近現代社会の構造と変動に関する理解を深める
- (3) 組織とネットワークの考察を通して、現代社会の分析に役立つ社会学的知識・概念・センスを身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	最終レポート
上記以外	60	平常点(出席・授業への参加度) 課題(授業内の作業)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは特に指定せず、配布資料をもとに講義を進める。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	権力と支配	M.ウェーバ	講談社	
2	産業・労働社会学：「働くこと」を社会学する	小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充	有斐閣	
3	ボランティアからひろがる公共空間	関嘉寛	梓出版社	

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2007、『社会学』、有斐閣、第4章「組織とネットワーク」。

前提学力等

履修資格

講義名	卒業研究・論文（地域文化）							担当教員	学科教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 武田 俊輔 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二 / 横田 祥子
講義コード	1401830	単位数	8	開講期	通年研究	授業種別	演習		
ナンバリング番号	430REG402								

授業概要

規定に従って、研究の成果を論文（作品）として提出する。

到達目標

(1) 研究内容や主張を効果的に他者に伝えるため、適切な構成と文章表現・映像表現などによる卒業論文（作品）が作成できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	研究内容や主張を効果的に他者に伝えるため、適切な構成と文章表現・映像表現などによる卒業論文（作品）が作成できるようになるについては、論文（作品）および口頭試問の内容により評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	卒業研究・論文（地域文化）							担当教員	学科教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 武田 俊輔 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二 / 横田 祥子
講義コード	1401830	単位数	8	開講期	通年研究	授業種別	演習		
ナンバリング番号	430REG402								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容、スケジュールについて説明する。
第2回	卒業研究 その1	
第3回	卒業研究 その2	
第4回	卒業研究 その3	
第5回	卒業研究 その4	
第6回	卒業研究 その5	
第7回	卒業研究 その6	
第8回	卒業研究 その7	
第9回	卒業研究 その8	
第10回	卒業研究 その9	
第11回	卒業研究 その10	
第12回	卒業研究 その11	
第13回	卒業研究 その12	
第14回	卒業研究 その13	
第15回	卒業研究 その14	
第16回	卒業研究 その15	
第17回	卒業研究 その16	
第18回	卒業研究 その17	
第19回	卒業研究 その18	
第20回	卒業研究 その19	
第21回	卒業研究 その20	
第22回	卒業研究 その21	
第23回	卒業研究 その22	
第24回	卒業研究 その23	
第25回	卒業研究 その24	
第26回	卒業研究 その25	
第27回	卒業研究 その26	
第28回	卒業研究 その27	
第29回	卒業研究 その28	
第30回	卒業論文（作品）の完成	卒業論文（作品）を完成させ、期限内に提出する。

担当者から一言

1. 担当教員の指導により、4年次前期の早い時期に卒業研究のテーマをかためて研究を進めること。
2. 後期の早い時期に行う中間報告会で、卒業研究の進捗状況等を発表すること。

講義名	対外文化交流論 A							担当教員	田中 俊明
講義コード	1401840	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC210								

授業概要

テーマ：加耶と倭国

日本と朝鮮半島の関係に関する知識を共有することを目的とする。今期は、加耶と日本との関係をとりあげる。加耶とは朝鮮半島南部にあった小国群であり、日本ではかつて「任那」とよばれ、統治した時代があったかのように考えられたことがあるが、現在は、その史的展開を動的に把握することが可能になってきた。そこで、加耶諸国の政治過程と、対外関係特に倭との関係について詳述することにした。

キーワード 加耶 加羅 任那 百済 倭国 加耶琴 于勒

到達目標

- (1) 加耶の歴史そのものについて知る。
- (2) 加耶と日本との関係について知識を得る。
- (3) 古代文献史学の方法論を実際に知る。
- (4) 漢文史料の読解。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	期末試験期間の試験
レポート課題	20	レポートを1回課す。テーマ、締切等は、最初の授業で伝える。
上記以外		

授業外学習

参考書は、適宜指示するので、みずから知識を高める努力をしてほしい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は用いない。毎回、史料を中心としたプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	古代の日本と加耶	田中俊明	山川出版社	978-4-634-54682-0
2				
3				

適宜、指示する。

前提学力等

高校時代の、日本史・世界史教科書を見直し、百済および百済と日本との関係について記されていることを自分の知識としているかどうかを確認する。2年次以降の履修が望ましい。

履修資格

講義名	対外文化交流論C /							担当教員	Borjigin Burensain / 河 かおる
講義コード	1401860	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

日本人の海外移民の歴史について学ぶ。日本の近代史は、移民活動をめきにしては語れない。本学が位置する滋賀県も多くの移民を送り出した。日本人の移住先は、ハワイ、アメリカ本土やカナダをはじめ、メキシコ、ブラジルなどの中南米、朝鮮、満州、中国本土、ロシア極東、樺太、南洋群島、東南アジア、オセアニアとひろい範囲におよんでいる。日本人が、いつ、どこへ移住し、どんな仕事についたか、移住先の地域の性格にどのような違いがあったかなどについて、概要とともに、いくつかの地域を取り上げて具体的に学ぶ。

到達目標

- (1)日本人の海外移民の歴史について概要を理解する。
- (2)授業で扱う具体的な地域への移民について、その特徴を理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	【期末課題】プレゼンテーション、レポート
上記以外	60	講義で出される複数の課題

授業外学習

課題レポート

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	海を渡った日本人	岡部牧夫	山川出版社	978-4634545601
2				
3				

講義内容に関連する文献リストを授業で配付する

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	地域経済史論							担当教員	東 幸代
講義コード	1401900	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HIS302								

授業概要

日本近世における地域経済の史的展開をテーマとする講義である。近世の地域市場のみならず、全国市場においても重要な商品であった肥料を素材とし、近江国の地域経済のあり方を考える。また、前近代において重要な流通路であった琵琶湖の舟運の特徴について示す。

到達目標

日本近世の流通構造とその変遷を理解するとともに、その背景にある社会構造を理解する。あわせて、流通史における琵琶湖舟運の意義を理解することを目指す。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	日本近世の流通構造とその変遷について理解ができているか。 琵琶湖舟運の意義について理解ができているか。 読み手に理解可能な説明ができているか。
レポート課題	20	講義の概要が理解できているか。 正しい日本語を使用しているか。
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	近世魚肥流通の地域的展開	古田悦造	古今書院	
2				
3				

講義中にプリントを配布する。

前提学力等

近世近江論を受講済みであることが望ましい。

履修資格

講義名	地域研究論							担当教員	上田 洋平
講義コード	1401920	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130SOC104-C								

授業概要

「地域」という言葉はこの項目にし耳にし内日がないほどのキーワードであり、普段気軽に使われる言葉であるが、いざこれを相手にしようとするとき非常に厄介な概念である。片や個人の内面世界から片や地球あるいは宇宙空間にまで伸び縮みする「地域」について様々な角度から考える。

実際の身近な事例によりつつ、また時に簡単なワークショップを取り入れて、この時代における「地域」や「地域文化」の意味及びそのおかれていた状況を点検した上で、「地域」を問題にし、「地域」について考えること及びその成果を地域に還元することの意義とその方法を議論する。

このことを通じて、地域に学び地域と関わるために必要な基礎的な見識、地域というフレームを使って世界や人間、文化について考える仕方やその成果、地域研究・地域学の成果をいかに活用し地域に還元するかについて理解し説明できるようになること。また以上を踏まえ、いかに「地域」を生きるかというそれぞれの実践に関する考えを持つことを求める。

到達目標

- (1) 地域という概念および地域研究・地域学に関わる基本的な概念・用語について理解し説明できる。
- (2) 地域に立脚して、また地域という枠組みを通して社会や文化、人間を見ることの意義について理解し説明できる。
- (3) フィールドワークをはじめとする地域研究・地域学の調査・研究手法の基礎について理解するとともに自身で活用できる。
- (4) 地域研究・地域学の成果の整理、表現、地域への還元についての基本的な考え方及びその方法について理解し自身で活用できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標における(1)及び(2)については定期試験により評価する。
レポート課題	50	到達目標における(3)及び(4)については毎回の授業後に課す小レポート(ワークショップ成果物含む)により評価する。
上記以外		

授業外学習

(宿題)授業中に実施するワークショップ、あるいはインタビューについて、その準備やまとめの作業で授業時間内に完成しなかったものは、宿題となる。(小試験)小試験はしない。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域考古学 C							担当教員	伊庭 功
講義コード	1401950	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HER208								

授業概要

発掘調査等で出土する考古資料には多種多様な内容があり、それぞれふさわしいアプローチが求められる。講義では、講師が滋賀県で取り組んだ3つの分野（縄文貝塚・弥生土器・山城）について、それぞれの研究史と取り組みの実際を紹介するので、これらをケーススタディとして学び取ってほしい。また、取り組みの成果はおのずと各時代における近江の特色を表しているの、それをあわせて学んでもらいたい。

到達目標

- (1) 遺跡に内包される多種多様な情報を的確に資料化するには、さまざまな分野の知識と応用が必要になる。本講義では3つの実践例をあげる。
- (2) 第2～5回（粟津貝塚）では、地形・植物遺存体・動物遺存体を考古資料として扱う「環境考古学」と呼ばれる分野の実践例を説明する。
- (3) 第6～10回（弥生土器）では、日本考古学の基本理論である型式学（あるいは様式論）を踏まえつつ、これらが想定していない現象（異系統土器の共存）に対するどのように取り組みを説明する。
- (4) 第11～14回（観音寺城跡）では、地表面で観察できる遺構の調査や、文献・伝承・絵図の調査など、発掘調査によらない遺跡調査のあり方について実例を説明する。
- (5) 各々の実践例は滋賀県の遺跡をフィールドにしたものであるから、実践から得られた結果がおのずとあらわすことになる考古学的あるいは歴史的地域性を述べることになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	3つの実践例（テーマ）から1つ以上を選び、講義内容をふまえて、受講者各自が考えるところをまとめるレポートを課す。
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

講義で紹介する遺跡調査の実践例は参考書にあげた文献に成果部分を記しているの、事前に読んでおけばよりよく理解できると思う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「粟津湖底遺跡から見た縄文時代の生業と環境」『国立歴史民俗博物館研究報告』第81集	伊庭 功		
2	「近江南部の中期弥生土器 様式と器種構成」『古代文化』55-5 2002	伊庭 功		
3	シリーズ中世西国武士の研究3『近江六角氏』	新谷和之編	戎光祥出版	ISBN978-4-86403-144-8

『近江六角氏』では、所載論文のうち講師の論文と村田修三氏の論文が本講義に関連する。

前提学力等

履修資格

講義名	地域考古学D							担当教員	松本 啓子
講義コード	1401960	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HER209								

授業概要

本講義は、日本の鎖国期の遺跡から出土したヨーロッパ製品を考古学の観点から検証し、日本と当時の世界情勢を読み解く研究である。対象とするのは、16・17世紀のルネッサンス期にヨーロッパ全土で流行したマジョリカ陶器で、これを中心にこの時代の（日本から見た）外国製品を扱う。

マジョリカ陶器のアルパレルロという壺は、日本では鎖国期に輸入されたヨーロッパ製品で、茶道の水指として珍重された。鮮やかな色絵を施したこの壺は、ヨーロッパではカトリック修道院がほぼ独占的に薬局や病院を経営していた頃、薬壺として作られた。日本の美術全集では、17世紀オランダを代表するデルフト陶器として紹介されているが、実際に大坂出土品を持参して産地を探ってみると、デルフトはおろかヨーロッパ各都市では同じものは作っていないという。なぜなら、大坂出土品は形態が17世紀型で、文様が16世紀型という奇妙な壺だからである。

当時、ヨーロッパでは宗教改革が起こり、諸国の領有権争いも加わって、ヨーロッパ全土が騒乱し、マジョリカ陶器やその陶工もこれに翻弄された。一方、日本ではカトリックが禁止され、17世紀半ばに鎖国へと突入した。こういった中でマジョリカがどのようにして遠く離れた日本に請来されたのか、マジョリカ陶器が辿ったダイナミックな歴史を考察する。

講義は三段階に分けて進める。最初に考古学の基本的な研究方法を示し、次に大坂出土品と実物比較しながら巡ったヨーロッパ各地の情報を、現地で撮影した写真や資料を基にパワーポイントで紹介し、最後に考古学的事実からの考察を行う。

到達目標

- (1) 考古学の方法により、世界史・日本史という歴史の枠を越えて、同時代の遠隔地間交易の実態を、モノに即して検証することができる。
- (2) 単にモノの移動、輸入といった現象のみならず、その背景にある社会情勢・経済情勢を読み取ることができる。
- (3) 授業を通じて、知識として知る通説や常識にとらわれず、事実に基づく検証や多角的なものの見方が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	40%	到達目標(2)(3)については、レポート試験を行う。
上記以外	60%	到達目標(1)については、毎回レスポンスペーパーを提出してもらう。

各回のレスポンスペーパーの代わりに、その回の内容について調べてきたことの報告や、内容に沿って自身の考えを述べるといったプレゼンテーションでも可とし、その場合はその回のレスポンスペーパーの提出を免除する。
レポート試験は、アスポを通じて提出すること。

授業外学習

中学・高校で習った世界史・日本史の16・17世紀のようすをおさらいしておいて下さい。
キーワードは、「宗教改革」・「ルネッサンス」・「大航海時代」・「オランダ連合東インド会社」・「鎖国」・「キリスト教禁教令」です。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各回、プリントを配布します。

前提学力等

履修資格

講義名	地域と空間							担当教員	市川 秀之
講義コード	1401980	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER102-C								

授業概要

地域社会を理解するうえで、空間的視点からのアプローチは非常に有効である。この授業では村落および年を対象として、地域社会と空間の関連について説明を進めたい。具体的にはムラとマチの見方・歩き方が授業の中心となる。民俗学的視点からの村落・都市空間論や生業空間の利用を中心に講義するが、条里制・街道・城下町など歴史地理学的なテーマについても取り上げることとする。
授業では多くの地図を配布し、それを利用して講義をすすめる。課題レポートではその地図を生かしたフィールドワークの成果の提出を求める。授業を通じて地図の利用に精通することも目的の一つである。

到達目標

- (1) 地域社会の空間的特質に関する基本的な概念および用語を理解する。
(2) 地形図や小字図を読みとく技法を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	・地域社会の空間的特質に関する基本的な概念および用語を理解できているか否かを評価(語句説明)。 ・地形図や小字図を読みとく技法を習得できているか否かを評価(地図読解)。
レポート課題	20	任意の場所について新旧の地図を利用して、その土地の空間的な特性が説明できるか否かを評価。
上記以外	40	毎回提出するレスポンスカードの内容を通じて、その授業の内容を理解できているか否かを評価。

レポートを提出していないものは評価対象とはしない。

授業外学習

宿題は特に課さないが、毎回授業のあとで提出するレスポンスカードの内容については評価対象とする。また次回に配布するレスポンスへの回答については熟読しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	日本の民俗 5	市川秀之ほか	吉川弘文館	978-4-642-07873-3
2				
3				

授業ではレジュメを配布する

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習						担当教員	学科教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 武田 俊輔 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二 / 横田 祥子	
講義コード	1401990	単位数	2	開講期	通年	授業種別			演習
ナンバリング番号	230REG201								

授業概要

3回生以後の卒業論文に関する指導を主な内容とする地域文化演習・地域文化演習への導入の授業である。このなかで、卒業論文のテーマをどうするのかなどの自覚を促し、3回生の時点でスムーズにゼミを選択し、個別的な指導を受けられるように方向づける。領域を日本文化史、日本地域史、地理学、中国の文化と社会、保存修景、考古・古代、社会学・文化研究、民俗学、日本美術史のゾーンに区分し、学生は前期と後期にそれぞれ一つずつ選択する。

到達目標

(1) 研究課題を見だし探求するために必要な専門知識・周辺知識を自ら進んで学習できるようになる(100%)。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	研究課題を見だし探求するために必要な専門知識・周辺知識を自ら進んで学習できるようになる(100%)については、毎回のゼミでのディスカッションへの参加(50%)と、報告内容(50%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミ教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミ教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習							担当教員	学科教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 武田 俊輔 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二 / 横田 祥子
講義コード	1401990	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	230REG201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容、スケジュールについて説明する。
第2回	地域文化演習 その1	
第3回	地域文化演習 その2	
第4回	地域文化演習 その3	
第5回	地域文化演習 その4	
第6回	地域文化演習 その5	
第7回	地域文化演習 その6	
第8回	地域文化演習 その7	
第9回	地域文化演習 その8	
第10回	地域文化演習 その9	
第11回	地域文化演習 その10	
第12回	地域文化演習 その11	
第13回	地域文化演習 その12	
第14回	地域文化演習 その13	
第15回	地域文化演習 その14	
第16回	地域文化演習 その15	
第17回	地域文化演習 その16	
第18回	地域文化演習 その17	
第19回	地域文化演習 その18	
第20回	地域文化演習 その19	
第21回	地域文化演習 その20	
第22回	地域文化演習 その21	
第23回	地域文化演習 その22	
第24回	地域文化演習 その23	
第25回	地域文化演習 その24	
第26回	地域文化演習 その25	
第27回	地域文化演習 その26	
第28回	地域文化演習 その27	
第29回	地域文化演習 その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	地域文化演習						担当教員	学科教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 武田 俊輔 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二 / 横田 祥子	
講義コード	1402000	単位数	2	開講期	通年	授業種別			演習
ナンバリング番号	330REG301								

授業概要

4回生の卒業論文に関する指導を内容とする地域文化演習 に直接つながる授業と位置づける。個別にゼミを選択し、各自のテーマに従って研究を進める。

到達目標

(1)指導教員やゼミ生、および地域との関わりのなかで、リーダーシップと協調性をもって主体的に研究活動ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	指導教員やゼミ生、および地域との関わりのなかで、リーダーシップと協調性をもって主体的に研究活動ができるようになる(100%)については、毎回のゼミでのディスカッション(50%)と報告内容(50%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミ教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミ教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習							担当教員	学科教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 武田 俊輔 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二 / 横田 祥子
講義コード	1402000	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	330REG301								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容やスケジュールについて説明する。
第2回	地域文化演習 その1	
第3回	地域文化演習 その2	
第4回	地域文化演習 その3	
第5回	地域文化演習 その4	
第6回	地域文化演習 その5	
第7回	地域文化演習 その6	
第8回	地域文化演習 その7	
第9回	地域文化演習 その8	
第10回	地域文化演習 その9	
第11回	地域文化演習 その10	
第12回	地域文化演習 その11	
第13回	地域文化演習 その12	
第14回	地域文化演習 その13	
第15回	地域文化演習 その14	
第16回	地域文化演習 その15	
第17回	地域文化演習 その16	
第18回	地域文化演習 その17	
第19回	地域文化演習 その18	
第20回	地域文化演習 その19	
第21回	地域文化演習 その20	
第22回	地域文化演習 その21	
第23回	地域文化演習 その22	
第24回	地域文化演習 その23	
第25回	地域文化演習 その24	
第26回	地域文化演習 その25	
第27回	地域文化演習 その26	
第28回	地域文化演習 その27	
第29回	地域文化演習 その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	地域文化演習						担当教員	学科教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 武田 俊輔 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二 / 横田 祥子	
講義コード	1402010	単位数	2	開講期	通年	授業種別			演習
ナンバリング番号	430REG401								

授業概要

卒業論文に関する指導をする。個別にゼミを選択し、各自のテーマに従って研究を進める。

到達目標

(1) 卒業論文の研究課題にとりくむための研究計画を立案し、それに基づいて研究を実行できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	卒業論文の研究課題にとりくむための研究計画を立案し、それに基づいて研究を実行できるようになるについては、毎回のゼミでのディスカッション(50%)と報告内容(50%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミ教員の指示による

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミ教員の指示による

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習							担当教員	学科教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 武田 俊輔 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二 / 横田 祥子
講義コード	1402010	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	430REG401								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容やスケジュールについて説明する。
第2回	地域文化演習 その1	
第3回	地域文化演習 その2	
第4回	地域文化演習 その3	
第5回	地域文化演習 その4	
第6回	地域文化演習 その5	
第7回	地域文化演習 その6	
第8回	地域文化演習 その7	
第9回	地域文化演習 その8	
第10回	地域文化演習 その9	
第11回	地域文化演習 その10	
第12回	地域文化演習 その11	
第13回	地域文化演習 その12	
第14回	地域文化演習 その13	
第15回	地域文化演習 その14	
第16回	地域文化演習 その15	
第17回	地域文化演習 その16	
第18回	地域文化演習 その17	
第19回	地域文化演習 その18	
第20回	地域文化演習 その19	
第21回	地域文化演習 その20	
第22回	地域文化演習 その21	
第23回	地域文化演習 その22	
第24回	地域文化演習 その23	
第25回	地域文化演習 その24	
第26回	地域文化演習 その25	
第27回	地域文化演習 その26	
第28回	地域文化演習 その27	
第29回	地域文化演習 その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	地域文化基礎演習						担当教員	学科教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 武田 俊輔 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二 / 横田 祥子	
講義コード	1402011	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	130REG105								

授業概要

地域文化学科で学び研究することになる専門分野に関して、基礎的な知識や研究の手法を学ぶ。学生は二つのグループに分かれ、授業ごとに学科教員全員の指導を受けることになる。

到達目標

(1)専門分野に関する基礎的な知識や研究の手法を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	専門分野に関する基礎的な知識や研究の手法を身につけることができるについては、第2回～第15回の毎回の小レポートで評価する(100%)。100点満点で60点以上を合格とする。
上記以外		

授業外学習

第2回より、毎回各分野のテーマに沿った小レポートを提出してもらおう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学的滋賀ガイド	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科編	昭和堂	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化財論 A							担当教員	伊藤 裕久
講義コード	1402020	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER104								

授業概要

地域固有の歴史的環境を守り育てていくためには、様々な立場の人が、その成り立ちを正しく認識することが不可欠である。授業では、建築史・都市史学の立場から、日本や東アジアの伝統的な都市や集落を素材として取り上げ、地域の歴史的環境を空間＝社会的側面から捉える視点や方法を解説する。
また、近年、多様化しつつある「保存活用」の問題について具体的事例を紹介することで、広がりをもった実践的な地域文化財論の可能性を検討したい。

到達目標

地域文化財の重要性について認識し、地域の歴史的環境を保存・継承していくための方法論の基礎を習得することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	集中講義後に出題するレポートによって評価する。
上記以外	50	集中講義のため、とくに授業への取り組み(授業中の小課題)を重視する。

集中講義のため、3分2以上授業に出席した受講者を評価の対象とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回授業時にプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考図書は、適宜、授業内で紹介する。

前提学力等

特にないが、身近な地域の文化財保存や歴史的環境の保全について、日頃から、歩く・見る・調べるという姿勢をもっていること。

履修資格

講義名	地域文化財論 B							担当教員	濱崎 一志
講義コード	1402030	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER105-C								

授業概要

学術的な価値や美術的な価値は高くはないものの、人々の永きにわたる営みにより、地域の中ではなくまれてきた地域文化財について講義する。歴史的環境を構成する地域文化財のうち、遺跡や建造物もしくは建造物群や文化的景観を中心に講義し、その保全について解説する。

到達目標

- (1)身近な生活空間の中に遺存している地域文化財について理解し、その多様性を説明できること。
- (2)地域文化財のはぐくまれてきた歴史的環境を理解し、説明できること。
- (3)地域文化財を再評価し、その保存・活用について考えられること。
- (4)地域や時代を問わず、地域文化財を取り上げ、人々を魅了する点について批評することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	80	到達目標で示す(1)身近な生活空間の中に遺存している地域文化財について理解し、その多様性を説明できること、(2)地域文化財のはぐくまれてきた歴史的環境を理解し、説明できること、(3)地域文化財を再評価し、その保存・活用について考えられること、(4)地域や時代を問わず、地域文化財を取り上げ、人々を魅了する点について批評することができる
上記以外	20	レスポンスペーパーにより、講義内容の理解度を評価する。

課題レポート(80%)とレスポンスペーパー(20%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	都市史図集	都市史図集編纂委員会	彰国社	4-395-00489-X C3052
2	東洋建築史図集	日本建築学会	彰国社	4-395-00087-8 C3052
3	西洋建築史図集	日本建築学会	彰国社	4-395-00021-5 C3052

授業中にプリント配布

前提学力等

履修資格

講義名	地誌学							担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1402050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330S0C305								

授業概要

地理学は系統地理学と地誌学とに大別される。系統地理学は「～の気候」（自然地理学）や「～の産業」（人文地理学）というようにさまざまなテーマごとの分析を行うが、地誌学は系統地理学の知見を統合し、「地域」それ自体の特性を明らかにする分野である。本講義では、国内外のいろいろな「地域」を素材とし、その特徴を他地域との共通性あるいはユニークさに留意しつつ解説していく。また、地図を使った作業などを通して、地域研究の経験も重ねさせていきたい。

到達目標

- (1) 日本・世界の地域問題を、人文地理学の観点から考察することができる。
- (2) 日本・世界の地域問題を、自然地理学の観点から考察することができる。
- (3) 日本・世界の地域問題を、統計データや地図から読み取ることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1)(2)(3)それぞれ20%ずつ。出題方針、採点基準は授業にて通知する。
レポート課題		
上記以外	40	宿題を課す。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地理学基礎シリーズ 地誌学概論	矢ヶ崎典隆ほか	朝倉書店	974-4-254-16818-1
2	日本の地誌8 近畿圏	金田章裕・石川義孝編	朝倉書店	974-4-254-16768-7
3				

適宜プリントを配布する。

前提学力等

人文地理学Aを履修済みであること。

履修資格

講義名	中国・内モンゴル地域文化論/							担当教員	Borjigin Burensain
講義コード	1402080	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

本講義は中国の少数民族自治区域の一つとしての内モンゴルと「モンゴル世界」の一部としての内モンゴルの多角的な側面を見ることによって、「モンゴル」の多様化と、中国の周縁の少数民族居住地域の社会動向を把握しようとするものである。それ等を通して多民族、多文化社会である中国周縁地域の複雑な状況を講義する。

到達目標

「モンゴル世界」の多様化した現実を紹介することによって「モンゴル=遊牧」というステレオタイプからの脱却を目指したい。また内モンゴルの成り立ちを通して中国の少数民族問題に対して一定の認識を持たせたい。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	期末試験に必ず参加すること。
レポート課題	30	レポート課題の提出とその内容による評価
上記以外	30	三分の二以上の出席が必要。また、レスポンスカードによる積極的な質問も評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	中国語文献講読/							担当教員	横田 祥子
講義コード	1402090	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

中国語の新聞・雑誌・論文などの読解を通じて、中国語の高度な表現を学ぶとともに、現代中国事情を理解する。また、ピンイン・発音など基礎能力の確認と、基礎表現の定着をはかる。

到達目標

中国語メディアを日常的に利用できる語学力を身につける。また、中国語文献を読み、中国事情を理解できるようになることを目標とする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	(1) 中国語のピンインを正しく表記し、正確に発音できる。(10%) (2) 中国語の文章を的確に読解できる。(10%) (3) 日本語の文章を中国語に翻訳できる。(10%)
レポート課題	30	中国語の新聞・雑誌・論文を読んで理解し、適当な日本語に翻訳できる。
上記以外	40	毎回授業開始時に実施するテストで、単語・ピンイン・文章を正確に書ける。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

毎回、予習をしてきてください。電子辞書があると便利です。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	中国語文法教室	杉浦博文	大修館書店	9784469231212
2	中国語の文法スーパーマニュアル 中国語の奥底を流れる超重要ルールがわかる	古川裕	アルク	9784757413764
3	聴く中国語		日中通信社	

毎回読む文献は授業中に配付します。

前提学力等

原則として中国語 A、 B、 A、 Bを履修していること。

履修資格

講義名	中国語文献講読/							担当教員	横田 祥子
講義コード	1402090	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	中国語基礎力の確認
第2回	中国語テキストの読解1－日常生活について－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第3回	中国語テキストの読解2－日常生活について－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第4回	中国語テキストの読解3－食文化－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第5回	中国語テキストの読解4－食文化－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第6回	中国映画から表現を学ぶ1	中国映画の名作を鑑賞しながら、日本語にはない表現の仕方を学ぶ。
第7回	中国映画から表現を学ぶ2	中国映画の名作を鑑賞しながら、日本語にはない表現の仕方を学ぶ。
第8回	中国語テキストの読解5－社会問題－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第9回	中国語テキストの読解6－社会問題－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第10回	中国語テキストの読解7－若者事情－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第11回	中国語テキストの読解8－若者事情－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第12回	中国映画から表現を学ぶ3	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第13回	中国映画から表現を学ぶ4	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第14回	中国語テキストの読解9－歴史－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第15回	中国語テキストの読解10－歴史－	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第16回	中国語新聞記事の読解1	中国語の新聞記事を読み、新聞表現と中国事情を学ぶ。
第17回	中国語新聞記事の読解2	中国語の新聞記事を読み、新聞表現と中国事情を学ぶ。
第18回	中国語新聞記事の読解3－日本に関する報道－	日本についての中国語新聞記事を読む。
第19回	中国語新聞記事の読解4－日本に関する報道－	日本についての中国語新聞記事を読む。
第20回	中国語テレビ番組から学ぶ1－宗教－	中国語のテレビ番組を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、宗教事情について学ぶ。
第21回	中国語テレビ番組から学ぶ2－宗教－	中国語のテレビ番組を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、宗教事情について学ぶ。
第22回	中国語雑誌記事の読解1－宗教－	宗教事情についての中国語新聞記事を読む。
第23回	中国語雑誌記事の読解2－宗教－	宗教事情についての中国語新聞記事を読む。
第24回	中国語雑誌記事の読解3－民族－	民族事情についての中国語新聞記事を読む。
第25回	中国語テレビ番組から学ぶ3－民族－	中国語のテレビ番組を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第26回	中国語テレビ番組から学ぶ4－民族－	中国語のテレビ番組を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第27回	中国語論文の読解1	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第28回	中国語論文の読解2	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第29回	中国語論文の読解3	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第30回	中国語論文の読解4	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。

担当者から一言

日本人にとって中国語の読解は、基本的文法をおさえていれば、それほど難しくありません。一年後には、たいいていの文章が読めるようになります。ぜひ本授業を活用して下さい。

講義名	中国地域文化論							担当教員	横田 祥子
講義コード	1402110	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC202								

授業概要

近年、中国が目覚ましい経済発展を遂げ、国際社会においてプレゼンスを高めるにつれ、経済発展や、それに伴う経済格差の拡大、環境汚染の深刻化など中国社会が直面している問題に関して、詳しい情報が流れている。これに比して、中国に生きる人々がどのような暮らしを送り、どのような文化的実践を行っているのかについては、相対的に情報量が減っているように思われる。しかし、隣国中国を総合的に理解するためには、政治経済的側面、社会問題だけでなく、社会的文化的側面からもアプローチする必要がある。そこで本授業では、中国の文化・社会を構成する重要なエッセンス、トピックを取り上げ、文化人類学的観点から理解を深める。

到達目標

- (1) 中国の文化の重要な基本概念を理解する。
- (2) 中国の文化の地域的・民族的多様性と、それに対する漢族の影響を理解する。
- (3) 中国文化の魅力を楽しむ。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	(1) 中国の文化の重要な基本概念を理解し、説明できる。(20%) (2) 中国の文化の地域的・民族的多様性と、それに対する漢族の影響を理解し、説明できる。(20%) (3) 中国の文化・社会について、自ら関心がある事象についての情報を収集し、まとめることができる。(30%)
上記以外	30	授業内容を理解し、発展的な質問ができる。

授業外学習

大学図書館には、中国の世界遺産や少数民族の文化、周辺国への文化的影響力を描いた映像資料や、少数民族が置かれている状況を伝える映画が多数ありますので、ぜひ鑑賞してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ハンドブック現代中国	愛知大学現代中国学部	あるむ	9784863330634
2	現代中国を知るための60章	高井潔司, 遊川和郎	明石書店	4750317721
3	漢民族と中国社会	橋本萬太郎	山川出版社	4634440504

前提学力等

履修資格

講義名	朝鮮語文献講読/							担当教員	定森 秀夫
講義コード	1402160	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

東アジアの考古学の成果を吸収することは、日本考古学研究を進めていく上で必須になりつつあるといっても過言ではない。特に、朝鮮半島ななく韓国での考古学調査研究の成果を取り入れていく必要性は非常に高いと言える。韓国語で刊行された報告書・書籍および考古学関係雑誌掲載論文の中から重要と思われる文献を選び、講読し日本語訳文を作成していく。

到達目標

1. 辞書を使用して韓国語で書かれた考古学の文献を訳すことができるようになる。
2. 考古学の文献の日本語訳文を作成して、翻訳した韓国考古学文献の内容を理解する。
3. 日本考古学と韓国考古学との比較検討ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業への出席と翻訳担当部分の発表内容を評価基準とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

朝鮮語(初級コース)を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	朝鮮語文献講読/							担当教員	定森 秀夫
講義コード	1402160	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	購読文献の決定	授業の注意と進め方の説明。購読する文献を決める。購読文献の担当部分の決定。
第2回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第3回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第4回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第5回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第6回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第7回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第8回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第9回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第10回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第11回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第12回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第13回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第14回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第15回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第16回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第17回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第18回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第19回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第20回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第21回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第22回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第23回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第24回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第25回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第26回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第27回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第28回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第29回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
第30回	文献購読	購読文献の担当部分の購読と翻訳および注釈。
担当者から一言		

講義名	朝鮮地域文化特論							担当教員	安田 純也
講義コード	1402170	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330EXC302								

授業概要

この授業では、朝鮮文化の形成、展開を歴史的に振り返るが、今年度は高麗時代から朝鮮時代前期（10～16世紀）の宗教文化史を取り上げる。高麗・朝鮮両王朝はそれぞれ約500年の長きにわたって朝鮮半島を支配した王朝であり、中国からの政治、文化的影響を強く受けつつも、独自の歴史を展開した。また、両時代の文物の多くは日本列島各地に伝存しており、日本とも関わりが深い。授業では、韓国、日本の学界における研究成果を踏まえつつ、具体的な史料や文物に即して論じる。

到達目標

朝鮮文化史の概要を把握できるようにする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	
レポート課題	20	1回課します。
上記以外	40	質問、宿題など。

宿題は随時課します。小テストは1回実施します。

授業外学習

授業では、冒頭で前回の復習を行うので、毎回の復習及びノートの整理を行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

配布プリントを中心とする。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	朝鮮の歴史	田中俊明	昭和堂	
2	世界史史料4	歴史学研究会	岩波書店	
3				

授業中に適宜紹介する。

前提学力等

朝鮮半島の歴史に興味を持つ学生を対象とします。

履修資格

講義名	朝鮮地域文化論							担当教員	田中 俊明
講義コード	1402171	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC203								

授業概要

統一新羅史

朝鮮半島の古代史に関する知識を共有することを目的とする。今期は、統一新羅史をとりあげる。7世紀に三国統一を達成した新羅は、専制化した王権のもとで、しだいに安定した時代を迎える。しかし8世紀末には内乱がつづき王権も動揺し、9世紀になると地方勢力も台頭して衰亡していき、後三国の戦乱を経て、935年に滅亡をむかえる。ただし東アジア的に見た場合には、在唐新羅人の活動や、また海域において活躍する新羅人の姿が知られ、新羅国家を越えたかたちで、新羅人の歴史をたどることもできる。

到達目標

朝鮮文化の形成についての理解を深める。
 (1) 高校教科書レベルとは異なる、朝鮮古代史についての知識を得る
 (2) 古代史の研究の方法について学ぶ。
 (3) 史料の扱い方を具体的に知る。
 (4) 朝鮮半島と日本との関わりについて具体的に知ることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	全体として習熟度を見る。
レポート課題	20	初回に課題・締切を伝える。講義テーマにどのように取り組むか、意欲を見る。
上記以外		

授業外学習

予習は特に必要ないが、配布したプリント、および講義内容について、復習のかたちで、目を通し、理解を深めておいてもらいたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は用いない。毎回、史料を中心としたプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は、個別に適宜指示する。

前提学力等

高校の世界史・日本史教科書に登場する新羅についての記述あるいはそのレベルは知っておく必要がある。それを前提として、講義を進める。

履修資格

講義名	朝鮮地域文化論 A /							担当教員	田中 俊明
講義コード	1402180	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

統一新羅史

朝鮮半島の古代史に関する知識を共有することを目的とする。今期は、統一新羅史をとりあげる。7世紀に三国統一を達成した新羅は、専制化した王権のもとで、しだいに安定した時代を迎える。しかし8世紀末には内乱がつづき王権も動揺し、9世紀になると地方勢力も台頭して衰亡していき、後三国の戦乱を経て、935年に滅亡をむかえる。ただし東アジア的に見た場合には、在唐新羅人の活動や、また海域において活躍する新羅人の姿が知られ、新羅国家を越えたかたちで、新羅人の歴史をたどることもできる。

到達目標

朝鮮文化の形成についての理解を深める。
 (1) 高校教科書レベルとは異なる、朝鮮古代史についての知識を得る
 (2) 古代史の研究の方法について学ぶ。
 (3) 史料の扱い方を具体的に知る。
 (4) 朝鮮半島と日本との関わりについて具体的に知ることができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	80	全体として習熟度を見る。
レポート課題	20	初回到課題・締切を伝える。講義テーマにどのように取り組むか、意欲を見る。
上記以外		

授業外学習

予習は特に必要ないが、配布したプリント、および講義内容について、復習のかたちで、目を通し、理解を深めておいてもらいたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は用いない。毎回、史料を中心としたプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は、個別に適宜指示する。

前提学力等

高校の世界史・日本史教科書に登場する新羅についての記述あるいはそのレベルは知っておく必要がある。それを前提として、講義を進める。

履修資格

講義名	朝鮮地域文化論 B /							担当教員	河 かおる
講義コード	1402190	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

朝鮮半島の近現代史を理解することを目的とする。近現代の通史を時系列に従って基本的な流れをつかみつつ、特に困難な近代の幕開け、植民地化、今も続く民族分断を経験した朝鮮半島の歴史への理解を深める。植民地化と民族分断を経験した近現代史の「困難さ」への想像力を鍛え、朝鮮の近現代史を密接な関連を持つ日本の近現代史を省察的にとらえ直すことを授業のねらいとする。

5月に留学から帰国する学生も履修できるよう、講義は5月中旬から開始する。休講分は学期末に調整する（詳細は講義中に説明する）。初回ガイダンスは4月の初回に実施し、その内容は海外で履修登録した者にもポータルを通じて配信する。

到達目標

- (1) 講義および配付資料の内容を理解し、小レポート毎に与えられた課題に適切に取り組める。
- (2) 朝鮮の近現代史、特に日本とかわる事柄に関して正確に理解し、基本的な説明ができる。
- (3) 講義の内容を踏まえ、植民地化と民族分断を経験した朝鮮近現代史に関するテーマを自ら立て、そのテーマについて論理的に説明できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	期末課題（プレゼンテーション・レポート）
上記以外	50	小レポート

授業外学習

ほぼ毎回小レポート課題を出す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	朝鮮の歴史	田中俊明	昭和堂	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	日本の植民地支配 肯定・賛美論を検証する	水野直樹・藤永壯・駒込武	岩波書店	
2				
3				

授業内容に関する文献リストを授業で配付する。

前提学力等

3・4年生配当科目だが、前期開講のため、留学の関係で所定の学年で履修しにくいので、2年生での履修も認めている。

履修資格

講義名	朝鮮文化論/							担当教員	河 かおる
講義コード	1402200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この授業では、隣国「朝鮮」（現在朝鮮半島にある二つの国家およびそれ以前も含む）について、次のような手順で理解を深め、考察していきます。
 前半は、「国の名前」「人」「言葉」等についての歴史や現状について確認しつつ、呼称の問題について考えて行きます。前半の締めくくりとしてレポート課題を出します。
 後半は、韓国・朝鮮に関するトピックを3つとりあげて講義した後、受講生の皆さん自身が見つけたトピックについてグループで調べ、最終的にプレゼンテーションをします。

到達目標

- (1) 朝鮮にまつわる呼称の問題（差別的呼称を含む）について、その歴史的背景を理解し、論理的に説明できる。
- (2) 韓国・朝鮮に関するいくつかのトピックについて理解を深める。
- (3) 韓国・朝鮮に関するトピックについてグループで調査を深め、プレゼンテーションできる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	
上記以外	70	小レポート 30% プレゼンテーション 30% 振り返りレポート 10%

授業外学習

ほぼ毎回、小レポート課題を出す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし。

履修資格

講義名	地理学実習							担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1402201	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230S0C212								

授業概要

地理学による地域分析では、収集したデータを統計的に処理し、さらに可視化して、現象を解釈・考察する。本授業は、多変量解析とGISを融合した実習をおこない、「数値データを可視化（地図化）する」ための基礎的技能を身につけるものである。また、終盤3回を使って、独自のデータを用いた地域分析プレゼンテーションをまとめる。なお、地理学実習 は、アンケート調査などから得られる質的データに関する内容である。

到達目標

- (1)数値データを統計的手法によって解析することができる。
- (2)GISソフトウェアを操作し、多変量解析の結果を地図化することができる。
- (3)論理的なプレゼンテーションを行うことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終報告による。到達目標(1)20%、到達目標(2)20%、到達目標(3)10%とする。
上記以外	50	実習成果物による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新版 地域分析： データ入手・解析・評価	村山祐司・駒木伸比古	古今書院	978-7722-5272-0
2	地域分析ハンドブック	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
3	MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座 第3版	後藤真太郎ほか	古今書院	978-4-7722-4162-5

適宜プリントを配布する。

前提学力等

人文地理学Bおよび地理学実習 を合わせて履修することが望ましい。

履修資格

講義名	地理学実習							担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1402202	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230SOC213								

授業概要

地理学による地域分析では、収集したデータを統計的に処理し、さらに可視化して、現象を解釈・考察する。本授業は、アンケート調査とGISを融合した実習をおこない、「質的データを可視化（地図化）する」ための基礎的技能を身につけるものである。また、終盤5回を使って、独自のデータを用いた地域分析プレゼンテーションをまとめる。なお、地理学実習 は、官公庁統計などの数値データに関する内容である。

到達目標

- (1) 質的データの収集・集計をすることができる。
- (2) 質的データを統計的手法によって解析し、GISソフトウェアで地図化することができる。
- (3) 論理的なプレゼンテーションを行うことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終報告による。到達目標(1)20%、到達目標(2)20%、到達目標(3)10%とする。
上記以外	50	実習成果物による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	らくらく図解 アンケート分析教室	菅 民郎	オーム社	978-4-274-06693-1
2	地域分析ハンドブック	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
3	MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座 第3版	後藤真太郎ほか	古今書院	978-4-7722-4162-5

適宜プリントを配布する。

前提学力等

人文地理学Bおよび地理学実習 を合わせて履修することが望ましい。

履修資格

講義名	哲学概論A							担当教員	鞍田 崇
講義コード	1402240	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH202, 235LAH301								

授業概要

「デザインと連携する哲学」を探るのが、この授業のねらい。

「これからのあるべき社会の姿をデザインすること」が、いま、哲学に課せられています。この役割は、哲学だけでは担いきれない。デザインとの連携があってはじめて可能となるものです。なぜなら、両者セットで人間固有の能力だからです。

ところで、ここでいう「社会」とは、自分たちが生活をいとなむ社会です。「これからのあるべき社会の姿をデザインすること」を考える上で、何よりも大事なものは、「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。この講義では、何よりもまず、そうした実感を皆さんと共有していきたいと考えています。

でも、なぜか。社会が大きく変わりつつある、いや大きく変えなきゃいけない時代だからです。この講義を機に、特にみなさんにぜひ考えていただきたいことが2点あります。

1) 人口減少

到達目標

1. 自分で「哲学する」ことのきっかけを得ること。
2. 社会と暮らしが「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。
3. 現代思想で問われていることの意味と歴史的背景を理解すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	学期末の最終レポート課題です。論述力、表現力、着眼点など、総合的に判断します。
レポート課題	35	学期中に一回、小レポート課題を出します。
上記以外	15	平常点として、授業への取り組み方など。

授業外学習

参考事例として掲げたものは、適宜自分でも調べるように。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民藝の「インティマシー」	鞍田崇	明治大学出版会	4906811132
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民藝のレッスン	鞍田崇(編)	フィルムアート社	4845911833
2	「生活工芸」の時代	三谷龍二(編)	新潮社	4103365315
3	哲学入門以前	川原栄峰	南窓社	4816500545

前提学力等

哲学概論ですが、狭義の哲学・思想だけが対象ではありません。デザインやアート、建築や工芸、農業や民俗などなど、ひろく柔軟な興味関心をもっていることがのぞましいです。そうじゃない人は、この機会に

履修資格

講義名	哲学概論 B							担当教員	鈴木 真
講義コード	1402250	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH203, 235LAH302								

授業概要

哲学の意義と面白さをわかるには、その古典に触れてみるのが有用です。この授業では、哲学の古典の可能な限り易しい紹介と批評を読んで議論することを通じて、哲学の様々なトピックと議論について考える基礎を作ります。

到達目標

講義で扱う哲学者たちの基本的動機、概念、主張、それを支える方法と証拠、彼らに対する批判を理解し、彼らが扱う哲学的問題について考えるための基礎力をつける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	70	
上記以外	30	授業への貢献

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	入門 哲学の名著	ナイジェル・ウォーパートン著・船木亨監訳	ナカニシヤ出版	4888489033
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	統計学基礎							担当教員	細馬 宏通
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD106, 134NUT107, 135PSY203								

授業概要

最近ではパソコンやソフトウェアのおかげで、数式を意識しなくとも気軽に統計をあつかえるようになってきた。にもかかわらず、いざデータを手にとると、どこから手をつけていいかとまどう人が多い。そもそもなぜそのデータに対して統計的処理を行なう必要があるのか。データにはどんな性質があるか。どんなタイプのデータにはどんな手法がふさわしいのか。どんな手法を使うとどんな結果が引き出されるのか。本講義では、以上のような問題を念頭に置きながら、標本や母集団などの基本的概念から出発して、推定や検定、検証的アプローチと探索的アプローチの基本的な知識を扱う。

到達目標

- (1) 母集団と標本の概念を身につける。
- (2) 相関を含む記述統計量の基本的な使い方を習得する。
- (3) 推定と検定の基本手順を習得する。
- (4) 日常生活で用いられる統計学的な考えに関心を持ち、検証する態度を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	70%	全回で扱った統計学的知識が正しく理解できているかを問う。
レポート課題		
上記以外	30%	小テスト(随時)：各回で扱った統計学的知識を理解しているかを問う。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	完全独習 統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社	4478820090
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	東洋史概説							担当教員	田中 俊明
講義コード	1402370	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130EXC101								

授業概要

東アジア世界の形成
東洋史はアジア史であり、広大な地理的空間と長い歴史をもっている。それをすべて扱うのは無理なので、ここでは東アジアにしぼって論述していく。東アジアとは、中国を中心として、朝鮮半島や日本、ベトナムなどを含む地域を指す。時代によって変化するが、ここで扱うのは、その形成期であり、どのようにしてひとつの世界とよぶことができるようになったのかについて概観していきたい。

到達目標

概説であり、中国史の前半とその時期の周辺地域との関係について概観するが、とうぜん知っておいてよい歴史的な流れである。そうした基礎知識を身につけてもらいたい。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	学期末の定期試験の期間に実施
レポート課題	20	最初の授業で、課題・締切について伝える。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使わない。毎回、史料を中心としたプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は、適宜紹介する。

前提学力等

高校の世界史教科書の該当部分については、知っておく必要がある。

履修資格

講義名	日本・地域交流特論							担当教員	京樂 真帆子
講義コード	1402380	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HIS301								

授業概要

日本古代史の史料を輪読しながら、当時の政治・文化・社会への理解を深める。

到達目標

- (1)日本の歴史に関する基礎知識を理解し、史料の書き下しを正確に行うことが出来る。
- (2)日本の歴史に関する基礎知識を理解し、史料の解釈を正確に行うことが出来る。
- (3)日本の歴史に関する基礎知識を理解し、地域交流などの論点についての議論を行うことが出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	適宜行う小テスト 30パーセント まとめの確認テスト 70パーセント

授業外学習

授業期間内に適宜確認テストを行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本史概説							担当教員	水野 章二
講義コード	1402390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HIS102								

授業概要

日本の前近代がどのような社会であったかを、近現代社会との対比を通して具体的に考える。特に民衆に焦点をあて、民衆が生きていくために不可避免的に取り結ばざるを得なかった社会集団 身分編成のあり方や生産・生活の場の特質、前提となった歴史的環境とその変化などを多面的に検討する。

到達目標

- (1) 前近代社会における民衆の生活環境が理解できる。
- (2) 前近代社会に生きた人々の意識・認識が理解できる。
- (3) 前近代社会と近現代社会の相違が理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	(1) 前近代社会における民衆の生活環境が理解できる。 30% (2) 前近代社会に生きた人々の意識・認識が理解できる。 30% (3) 前近代社会と近現代社会の相違が理解できる。 20%
レポート課題		
上記以外	20	到達目標各項目について、理解度を確認し、質問させるレスポンスペーパーを随時提出。

授業外学習

関連する著書・論文を各自で読み込む。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	里山の成立 中世の環境と資源	水野章二	吉川弘文館	978-4-642-08284-6
2	中世の人と自然の関係史	水野章二	吉川弘文館	978-4-642-02884-4
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本社会論							担当教員	武田 俊輔
講義コード	1402400	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130SOC101-C, 235SOC303-C								

授業概要

同じ「日本社会」の中で暮らしつつも、その社会のメンバーシップからはじき出されてきた様々な人々の姿を通して、戦前・戦後の「日本社会」の姿を再検討することにある。労働市場からも教育からも福祉からも排除されていく人々の視点から「日本社会」はどう映るのか。またそうした人々を改めて社会に包摂した形で社会的な連帯を創り出すことの可能性を論じる。

到達目標

- (1)戦前期日本における国民国家形成のプロセスと、貧困や差別を背景として人々が国家にどのように動員されたのか、そのメカニズムを理解することができる。
(2)戦後～現代の日本における非正規雇用者やエスニック・マイノリティに関する社会的排除と現代に至るその顕在化について理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1)戦前期日本における国民国家形成のプロセスと、貧困や差別を背景として人々が国家にどのように動員されたのか、(2)戦後～現代の日本における非正規雇用者やエスニック・マイノリティに関する社会的排除と現代に至るその顕在化について、の2点についての理解度に基づき、評価を行う。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
上記以外		

レスポンスカードの内容に基づいて、加点する場合がある(最大5点)。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ナショナリズム論・入門	大澤真幸・姜尚中(編著)	有斐閣	4641123357
2				
3				

毎回、レジュメを配布する。

前提学力等

近現代の日本史について、高校教科書程度の知識があることが望ましい(必須ではない)。

履修資格

講義名	日本史料講読							担当教員	水野 章二 / 東 幸代 / 森本 英令奈
講義コード	1402420	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	130REG104								

授業概要

日本の前近代の社会や文化を理解する上で必要な各種史料の読解力を養う。各時代を代表する史料を選んで輪読し、史料の具体的な内容を検討するとともに、史料の作成された時代や社会の特質などについて考察して、歴史研究の基礎を身につける。前期は彦根藩関係の史料、後期は鎌倉幕府法などをとりあげる。第1回(前期)・第16回(後期)はテキストとする史料の性格と時代背景などを解説するが、第2回(前期)・第17回(後期)以降は順番に報告者を決め、史料の解釈などをしてもらうとともに、その歴史的な意味などを考える。

到達目標

- (1) 近世の基本史料の解釈・理解ができる。
(2) 古代・中世の漢文史料の解釈・理解ができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 近世の基本史料の解釈・理解ができる。25% (2) 古代・中世の漢文史料の解釈・理解ができる。25%
レポート課題	50	(1) 近世の基本史料の解釈・理解ができる。25% (2) 古代・中世の漢文史料の解釈・理解ができる。25%
上記以外		

授業外学習

適宜紹介する中・近世史の基本文献を各自で読み込む。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは授業時にプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本史料講読							担当教員	水野 章二 / 東 幸代 / 森本 英令奈
講義コード	1402420	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	130REG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前期授業方針の説明と今後の進め方	彦根藩関係史料をとりあげ、史料の性格や作成された目的、当時の彦根藩をとりまく社会状況などを解説するとともに、輪読担当者が何をどのような方法で調べて、報告するのかを説明し、今後の進め
第2回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第3回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第4回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第5回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第6回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第7回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第8回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第9回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第10回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第11回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第12回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第13回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第14回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第15回	前期まとめ	近世史料の特色を整理するとともに、近世社会がどのような社会であったのかを確認する。
第16回	後期授業方針の説明と今後の進め方	鎌倉幕府法（御成敗式目）を素材に、中世法の特質や式目が作成された時代背景などを解説するとともに、輪読担当者が何をどのような方法で調べて、報告するのかを説明し、今後の進め方を確定す
第17回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第18回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第19回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第20回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第21回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第22回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第23回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第24回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第25回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第26回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第27回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第28回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第29回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第30回	後期まとめ	中世史料の特色を整理するとともに、中世社会がどのような社会であったのかを確認する。
担当者から一言		

講義名	日本文化史論 /							担当教員	京樂 真帆子
講義コード	1402430	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

日本古代史の史料などに基づき、当時の文化について考える。『小右記』などの古記録を題材に、平安京の都市文化について様々な観点から分析していく。本年度の分析テーマおよびスケジュールについては、初回のガイダンスで発表する

到達目標

- (1)日本文化の歴史に関する基礎知識を理解し、それを現代文化との比較を通して論じることが出来る。
- (2)日本文化史に関する基礎知識を理解し、それを諸外国との比較を通して論じることが出来る。
- (3)日本文化史の基礎知識に基づき、文化の保存と活用について具体的な提言が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	毎回のレスポンスカード 30パーセント まとめの確認テスト 70パーセント

授業外学習

特になし

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高等学校で日本史Bを履修していること。

履修資格

講義名	日本文化史論A							担当教員	京樂 真帆子
講義コード	1402441	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HIS208								

授業概要

日本古代史の史料などにに基づき、当時の文化について考える。『小右記』などの古記録を題材に、平安京の都市文化について様々な観点から分析していく。本年度の分析テーマおよびスケジュールについては、初回のガイダンスで発表する。

到達目標

- (1)日本文化の歴史に関する基礎知識を理解し、それを現代文化との比較を通して論じることが出来る。
- (2)日本文化史に関する基礎知識を理解し、それを諸外国との比較を通して論じることが出来る。
- (3)日本文化史の基礎知識に基づき、文化の保存と活用について具体的な提言が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	毎回のレスポンスカード 30パーセント まとめの確認テスト 70パーセント

授業外学習

特になし

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高等学校で日本史Bを履修していること。

履修資格

講義名	日本文化論							担当教員	京樂 真帆子
講義コード	1402450	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HIS101								

授業概要

日本文化の諸相を歴史的に分析する。特に、日本映画に描かれる日本文化の問題点を歴史学的見地から評価していく。

到達目標

- (1)日本前近代の歴史に関する基礎知識を理解し、それを現代社会との比較を通して論じることが出来る。
- (2)日本の近代史に関する基礎知識を理解し、それを現代社会との比較を通して論じることが出来る。
- (3)日本文化の基礎知識に基づき、その保存と活用について具体的な提言が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	課題映画について論じる。
上記以外	30	毎回のレスポンスカード

授業外学習

適宜指示する

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	人間文化論 A							担当教員	細馬 宏通 / 市川 秀之 / 今井 絵理 / 島村 一平 / 森下 あおい
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD102, 134NUT102, 135LAH2011, 37BAC102								

授業概要

人間文化学部は、地域文化学科、生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科、国際コミュニケーション学科の5学科から成っている。しかしそれぞれの学科は特定の分野の中に閉じ込められているわけではない。では、それぞれの学科は外の分野に向かってどのように開かれているのだろうか、それを考える手がかりとして、この講義では異なる学科に属する10組の教員どうしの対談と、各学科の教員による5つのレクチャーが行われる。これから4年間を過ごす学部で、どのように学問の関心を広げ、他学科の教員や学生と交流を開いていけばよいのか、この講義からそのことを考えるヒントをつかんでほしい。

到達目標

- (1)人間の文化に関する知識を幅広く身につけ、理解できる。
- (2)学問領域を越えて、多様なできごとに興味と関心を持つ態度を持つことができる。
- (3)自分の領域で直面している問題に対して、他領域の人々とディスカッションを行い、柔軟な思考と判断を行うことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート課題（学生による学科間ディスカッションによるもの）
上記以外	50	各対談時のリスポンスペーパー

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論B						担当教員	定森 秀夫 / 石川 慎治 / 河 かのる / 武田 俊輔 / Borjigin Burensain	
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業種別			講義
ナンバリング番号	133LVD103, 134NUT103, 135LAH2021, 37BAC103								

授業概要

テーマ：「交流する文化、交差するまなざし」
文化は、さまざまな歴史的な要因によって他の文化と交流し、受容や反発の複雑なプロセスを経ながらそのオリジナルな形を変容させてゆく。本講義では、5人の教員がオムニバス形式で、それぞれ具体的な文化現象をとりあげて、その交流や変容の問題について論じる。
本年度の担当教員とその講義内容は以下の通りである。

到達目標

文化の交流や変容の諸相について理解すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	ミニレポートもしくは小テストに対する採点
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

その都度、紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論C							担当教員 宮本 雅子 / 遠藤 弘史 / 中井 直也 / 中村 好孝 / 東田 一彦 / 福渡 努 / 松嶋 秀明 / 森 紀之 / 横田 尚美
講義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	133LVD104, 134NUT104, 135LAH203							

授業概要

人間文化論Cでは「人間を取り巻く生活環境」に焦点をあて、生活環境に関わる諸問題について考える機会とする。生活環境は、人間の生活と生存にかかわる人的・社会的・自然的諸条件等からとらえることができる。そこで生活文化系3学科(生活デザイン・生活栄養・人間関係)教員のそれぞれの視点から、人間が心身ともに健康で快適に生活していくための諸条件について論じる。

この授業では、まず、住生活・衣生活における快適な環境条件について5回講義する(宮本・横田)。衣食住の中で、食が、一番夢がないといわれている。「カラダのためにコレを食べなさい、コレは食べてはいけません」、といわれ続け、説教食事学といわれています。この講義では、科学的根拠に基づいて、食事や栄養成分が健康や身体に及ぼす影響について論じる(中井・福渡・遠藤・森・東田)。

さらに、人間にとっての最小の共同体である家族がどのようになろうとしているかという現代家族論を5回講義する(松嶋・中村)。

到達目標

(宮本・横田)(1)住宅の中の暮らしとその変化について理解すること。(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす環境への影響に関心を持つことができる。

(中井・福渡・遠藤・森・東田)食事や栄養成分が健康や身体に及ぼす影響について理解することができる。

(松嶋・中村)(1)家族をみるための視点を身につけることができる。(2)現代的な社会問題を家族との関連で理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	(宮本・横田)到達目標の(1)住宅の中の暮らしとその変化について理解すること、(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす環境への影響に関心を持つことができる、については、課題レポート(33%:(1)19%、(2)14%)

各教員がそれぞれ授業中に課題を出すことがある。
授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	農耕社会論/							担当教員	Borjigin Burensain
講義コード	1402580	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

農村が八割以上を占める中国社会は、古今を問わず農民によって動かされてきた。その原動力の裏にはどんな仕組みが存在するであろうか。本講義では、農耕と文明との関係など、基礎的な知識を簡単に回顧したうえで、主として中国の農耕社会とその影響を受けて形勢された周辺地域の農耕社会を比較しながらアジアの農耕社会の仕組みを見ていきたい。また、農村問題を通して経済大国－中国が抱える問題とその行方を講義する。

到達目標

本講義では、世界最大規模の農耕社会を抱える中国の農村の社会構造を歴史的に整理したうえで、農耕大国中国の現状を理解できることを目指したい。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	期末試験に参加すること
レポート課題	30	課されたレポートの提出とその内容による評価
上記以外	30	三分の二以上の出席とレスポンスカードによる積極的なやり取りを評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	博物館経営論							担当教員	市川 秀之 / 中井 均
講義コード	1402601	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304CUR201, 3300TH302								

授業概要

学芸員としての活動を円滑におこなうために必要とされる博物館の施設・組織・運営に関する内容を事例を中心に講義する。また近年重要になってきている博物館運営への市民参加についてもとりあげたい。

到達目標

- (1) 博物館運営についての基礎的知識を習得すること
- (2) 実際の博物館の運営について評価する視点を獲得すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	博物館運営についての基礎的知識が習得されているか
レポート課題	20	実際の博物館を見学しそのレポートを作成することによって運営について評価する視点を獲得できているか否かを評価
上記以外	40	毎回提出するレスポンスカードを通じて授業の内容を理解しているか否かを評価

レポートを提出していないものは評価対象としない

授業外学習

宿題は特に課さないが、毎回提出を求めるレスポンスカードについては採点の対象とする。また次回に配布する回答についても熟読すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新時代の博物館学	全国大学博物館講座協議会西日本部会	芙蓉書房出版978-4-8295-0551-9	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業ではプリントを配布する

前提学力等

博物館学概論を履修していることが望ましい

履修資格

講義名	博物館展示論							担当教員	亀井 若菜 / 青木 俊郎 / 渡辺 恒一
講義コード	1402602	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304CUR203, 3300TH301								

授業概要

博物館は、展示を通して来館者に情報を発信し、来館者はそれを受け止める。博物館の重要な役割を担う展示に関する諸問題について考えていく。

到達目標

- (1)博物館展示のいくつかの例を見ることにより、自分で展示の方法や問題について考えられるようになる。
(2)博物館における実際の展示の方法や調査研究、収集保管、広報・教育普及等の内容について理解できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

到達目標(1)については、授業毎のレスポンスカード(20%)と、レポートで評価する(30%)。
到達目標(2)については、授業毎のレスポンスカード(30%)と、レポートで評価する(20%)。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域と行政							担当教員	宗野 隆俊
講義コード	1402665	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C210								

授業概要

1990年代以降、私たちの社会はさまざまな改革の波に洗われてきました。改革の時代を経て、大きく変化したものもあれば、そうでないものもあります。何が変わり、何が変わらなかったのかは、同時代の人間にとってはみきわめがたいものです。それでも、自分の生きる社会がどのような経緯をたどっていまに至っているのかを知る材料はあります。

「地域と行政」では、地方自治制度の基本的なしくみに留意しつつ、「中央と地方」、「官と民」、「公と私」の関係に焦点をあてて、日本社会を特徴づける枠組みがどのように変遷してきたのか、さらにそれは現在どのような方向に進みつつあるかを考えます。とくに、民間の主体（住民、住民組織、NPO、企業など）が地域社会でどのような機能をになっているかを考えるきっかけを提供したいと思います。

到達目標

- (1) 地方自治の基本的なしくみを理解する
- (2) 地方自治に関わる今日的な現象と意義、その現象が生起してきた背景を把握する
- (3) 上記 (1) (2) を、しっかりとした文章で的確に表現する

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	上記 (1) と (3) について、論述試験を行う (30点)。 上記 (2) と (3) について、論述試験を行う (70点)。
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

講義では、特定の教科書は指定しませんが、下記の参考書（佐々木信夫『現代地方自治』）が理解を助けてくれます。毎回レジュメを配布します

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	現代地方自治	佐々木信夫	学陽書房	9784313161405
2	ホーンブック 地方自治 第3版	磯崎初仁ほか	北樹出版	9784779304033
3				

前提学力等

学力の前提は設けませんが、地域社会や地方行政、経済の動向などに関心ある人の受講が望まれます。

履修資格

講義名	地域と経済							担当教員	秋山 道雄
講義コード	1402705	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230SOC209								

授業概要

人間が生活する場である地域は、スケールによって性格の異なる種類がある。我々が日常生活を送るもっとも身近な町内や集落から、市町村、都道府県、近畿圏のような広域圏に至るまで多様な地域が存在している。そして、こうした場で展開される経済活動の内容は、空間的なスケールによって異なっている。この授業では、地域において営まれる経済活動をとらえる基礎的な視点と方法を説明していく。さらに、経済の姿を定量的に把握するため、統計資料を用いた実態分析の方法を示す。

地域の経済は、今日の姿をとるまでにその地域がたどってきた経路の影響を受けている。そのため、地域経済の性格を把握するうえで、その歴史的な展開過程に注目していく。さらに、現在では経済のグローバル化が地域経済の在り方に影響をあたえるようになっている。そこで、グローバル化の中での地域経済という視点で対象をとらえていく方途を説明する。

地域経済の主軸をなすのは産業活動であるが、授業では産業活動に対象を限定せず、住民の生活や地域づくりの領域にまで拡張する。これを通じて、産業空間と生活空間を統合的に把握する方法を説明していく。

到達目標

- (1) 統計資料を用いて、地域経済の特性を説明することができる。
- (2) 現在の日本において生じている地域問題を示し、それが生じた背景を説明できる。
- (3) 第二次世界大戦後に展開した日本の地域政策の概要を示すことができる。
- (4) 自分の住んでいる地域もしくは関心のある地域について、その経済実態と問題点を説明し、それを克服する方策について自分の考えを述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70%	到達目標(1)～(4)については、夏期休暇中にレポートを課す。
上記以外	30%	到達目標(2)、(3)については、授業中のミニレポートおよび宿題のレポートを課す。

定期試験は実施しない。その代わりに、夏期休暇時にレポートを課す。授業全体を履修して得た学力を総合的に発揮するようレポートを作成すること。

授業外学習

授業の準備として、あるいは授業の復習として、テキストを順次読んでいくことが望ましい。その場合、第1章は後回しにして、第2章から第4章までを先に読み、最後に第1章を読むと理解が深まる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	国際化時代の地域経済学 第4版	岡田知弘ほか	有斐閣	978-4-641-22075-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

必要な参考文献は、授業中に説明する。

前提学力等

履修資格

講義名	比較文化論(地域)							担当教員	石川 慎治
講義コード	1402710	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C208								

授業概要

2005年に改正された文化財保護法において、「地域における人々の生活又は生業及び当該地区の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」として、文化的景観が定義された。この講義では、地域の歴史および風土との関連の中で成立してきた文化的景観を対象として、海外の事例なども紹介しながら日本における地域文化の多様性をみていく。

到達目標

主に日本の文化的景観について学び、各地の多様な地域文化について述べるができるようにする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	55%	到達目標について、自らの考えを問うためのレポート課題を課す。
上記以外	45%	到達目標について、毎回レスポンスペーパーを提出する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	東アジア考古学概論							担当教員	定森 秀夫
講義コード	1402711	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130EXC103								

授業概要

朝鮮半島は、旧石器時代から現在に至るまで日本と非常に関係が深い。朝鮮考古学の概要を理解し、日本考古学と比較してその相違性と相似性を理解することを目的とする。まず最初に、朝鮮考古学の基本と朝鮮考古学史の概要を講義する。そして、旧石器時代から朝鮮時代までの各時代における考古学の成果と問題点を概説する。場合によっては、主要な遺跡を取り上げたり、特殊な遺構・遺物を取り上げたりして、それらに関する詳しい内容を講義する。また、適宜スライド・ビデオなどを利用して、理解を深める。

到達目標

1. 朝鮮考古学の基本と朝鮮考古学史を理解する 2. 旧石器時代から統一新羅時代までの朝鮮考古学の内容を理解する 3. 日本考古学と比較して、日本と朝鮮との歴史的な関係を考える

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	小レポート2回(20%)と期末レポート1回(20%)の計3回。レポート内容および文章構成などの作文能力を評価。
上記以外	60	レスポンスカードを兼ねた出席カードで、出席を確認。出席カード代筆は、評価で0点となる。

10回以上出席で、レポートを3回提出して評価をするので、9回以下の出席とレポート2回以下の提出は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	美術史/							担当教員	亀井 若菜
講義コード	1402730	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この授業では、中世の絵巻や、近代の日本画、現代の広告などを取り上げ、女性像に注目し、その表現について考えていく。男性主導の社会の中で劣位に位置付けられながらも重要な役割を併せ持つ女性は、美醜、若老、健康病などといった両極の間で価値づけられていく。そのため絵に描かれるに際しても、その変数の間を揺れ動くこととなる。そのような女性像は、女性そのものを表そうとする場合だけでなく、自分の側に置きたいもの、敵対するもの、劣位に置きたいものなどのメタファーとしても表される。そのため、土地の支配や領有が問題となる際、あるいはある力関係の構築が図られる際、女性像はある役割を担って表される。女性像はその土地の中で、あるいは他者との関係性の中で、いかに描かれるのだろうか。またそのような役割を逃れ描かれた女性像はないのだろうか。授業では、毎回プロジェクターで作品の全体および細部を丁寧にしながら、女性像を配する絵の意味、その絵が作られた社会的文脈を考えていく。

到達目標

- (1) 中世絵巻の中の女性表象の特徴や意味を理解できるようになる。
- (2) 近現代の表象も含め、女性表象の特徴や意味を考えられるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	到達目標(2)については、レポート課題を出し、その内容について意見交換をする。
上記以外	40	到達目標(1)については、レスポンスカードを書いてもらい、自分の意見を述べてもらう。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	語りだす絵巻	亀井若菜	ブリュッケ	978-4-434-20751-8
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	美術史 B							担当教員	亀井 若菜
講義コード	1402732	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HIS206								

授業概要

この授業では、中世の絵巻や、近代の日本画、現代の広告などを取り上げ、女性像に注目し、その表現について考えていく。男性主導の社会の中で劣位に位置付けられながらも重要な役割を併せ持つ女性は、美、醜、若、老、健康、病などといった両極の間で価値づけられていく。そのため絵に描かれるに際しても、その変数の間を揺れ動くこととなる。そのような女性像は、女性そのものを表そうとする場合だけでなく、自分の側に置きたいもの、敵対するもの、劣位に置きたいものなどのメタファーとしても表される。そのため、土地の支配や領有が問題となる際、あるいはある力関係の構築が図られる際、女性像はある役割を担って表される。女性像はその土地の中で、あるいは他者との関係性の中で、いかに描かれるのだろうか。またそのような役割を逃れ描かれた女性像はないのだろうか。授業では、毎回プロジェクターで作品の全体および細部を丁寧にしながら、女性像を配する絵の意味、その絵が作られた社会的文脈を考えていく。

到達目標

- (1) 中世絵巻の中の女性表象の特徴や意味を理解できるようになる。
- (2) 近現代の表象も含め、女性表象の特徴や意味を考えられるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	到達目標(2)については、レポート課題を出し、その内容について意見交換をする。
上記以外	40	到達目標(1)については、レスポンスカードを書いてもらい、自分の意見を述べてもらう。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	語りだす絵巻	亀井若菜	ブリュッケ	978-4-434-20751-8
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	美術史実習							担当教員	亀井 若菜
講義コード	1402741	単位数	2	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HIS202								

授業概要

美術史を研究していく上では、実際に作品（実物）を見ることが大変重要である。作品の図版を掲載した出版物は多くあるが、それらは印刷されたものに過ぎない。オリジナルの作品は一つしかないものであり、自分の目でそれを見て、質感や大きさなどを捉えることが研究の第一歩となる。この授業では、美術館・博物館等に足を運び、自分の目で作品を見てそれについて報告することを実施する。見学は3回ほどを予定している。見学に行く場所は、彦根城博物館や京都の博物館・美術館、寺院等から、展示の予定により決める。また、授業スケジュールは、見学に行った分の時間を換算して立てる。授業スケジュールについては初回の授業で説明する。
見学前には事前勉強を、見学後には報告をしてもらう。ともに作品を見て意見を交換し合うことにより、美術に対する興味が高まることを期待する。

到達目標

- (1)美術作品に対して興味を持ち、自分の目で作品の特質を捉えることができるようになる。
- (2)美術作品の特質を自分の言葉で語るできるようになり、作品に関する先行研究をある程度調べられるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		到達目標(2) 見学後の授業で、一つの作品についてその特質や先行研究について報告し、レポートとして提出する(60%)。
上記以外	40	到達目標(1) 見学を積極的に行い、見学の際に、自分の言葉で作品の特質を語るようになる(40%)。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	文化財・保存修景論B							担当教員	中井 均
講義コード	1402930	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HER303								

授業概要

人類の歩んできた歴史を示す文化財はどのようにして今日まで残されてきたのか。そこには近代以降の法整備が重要な役割を果たしてきた。その理念と実情について学ぶ。とりわけ開発行為と表裏一体で破壊、消滅の危機に直面しているのが埋蔵文化財である。ここでは埋蔵文化財の保護が行政の立場でいかに取り組まれてきたかを検証する。また、近年人類共通の遺産として注目されている世界遺産について、特にアジアの世界遺産を題材として保護や修復について学びたい

到達目標

- (1)文化財保護の精神を身につけることができる
- (2)文化財活用必要性が理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	試験は記述式とする。評価基準は授業で学んだ歴史用語や語句を使って問いに対して的確に答えられているかで判断する
レポート課題	40	レポートは手書きとする。必ず自分の感想を述べる
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	文化財情報論							担当教員	濱崎 一志 / 石川 慎治
講義コード	1402940	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HER202								

授業概要

文化財に関する視覚的な情報をどのように取り扱うかについて講義する。3次元モデルの構築、レンダリングやアニメーションの作成、2次元画像情報の処理などを、AutoCAD、3D Studioなどを用いて実際にデータを入力しながら説明する。

到達目標

- (1) 3次元で図形を描くことの基礎を理解する。
- (2) 3次元で古建築を描くことの基礎を理解し、3次元モデルを作成することができる。
- (3) 作成した古建築の3次元モデルを用いてアニメーションを作成し、視覚的に表現することができる。
- (4) 写実的なアニメーションを作成するため、3次元モデルに貼り付ける2次元データを処理することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す(1)3次元で図形を描くことの基礎を理解する、(2)3次元で古建築を描くことの基礎を理解し、3次元モデルを作成することができる、(3)作成した古建築の3次元モデルを用いてアニメーションを作成し、視覚的に表現することができる、(4)写実的なアニメーションを作成するため、3次元モデルに貼り付ける2次元データを処理する

100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

各自が学部情報室において復習をおこない、疑問点があれば質問に来ること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配付

前提学力等

履修資格

講義名	文化社会学							担当教員	武田 俊輔
講義コード	1402950	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C201, 235S0C304								

授業概要

本講義は、近現代の日本における観光や開発、地域おこしと呼ばれる現象が、地域社会とそこに住む人々に対してどのような影響を与えるのかについて、地域社会における「伝統的」とされる芸能や祭りの変化、そしてその担い手である地域住民の暮らしの変化を切り口として、考えていく視点を手に入れてもらうことをねらいとしている。祭り・芸能を手がかりとした講義だが、それらへの美学的関心というより、地域社会における政治的・経済的な状況、観光や地域振興と地域文化とを結びつけて考えていくことに対する関心を持つ人向けの講義である。

到達目標

- (1) 「伝統」とみなされている地域社会の文化が、近現代においてどのように創造、再編成されたのかについて理解できるようになる。
- (2) 「伝統」文化を経済的な活性化に生かそうとする国家・自治体の文化政策について知識を得る。
- (3) 「伝統」文化の創造と再編成の中で、人々がどのような影響を受け、またそうした状況をどのように活用しているのかについて考察できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1) 「伝統」とみなされている地域社会の文化が、近現代においてどのように創造、再編成されたのかについて理解できる(30%)。 (2) 「伝統」文化を経済的な活性化に生かそうとする国家・自治体の文化政策について知識を得る(30%)。
上記以外		

レスポンスカードの内容に基づいて加点する場合がある(5点以内)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ふるさと資源化と民俗学	岩本通弥編著	吉川弘文館	4642081909
2	長浜曳山まつりの舞台裏	市川秀之・武田俊輔(編著)	サンライズ出版	4883251705
3				

授業中にレジュメを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	文化人類学概論 A							担当教員	島村 一平
講義コード	1402960	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH204, 137BAC104								

授業概要

文化人類学は、異文化理解のための学問であると同時に、自文化理解のための学問でもある。国境を越えて様々な人々が行き交う現代、文化人類学が生み出してきた異文化理解の方法論は、益々、重要性を持つものだと考えられる。俗に日本の常識は世界の非常識という。「世界の常識」というものが存在するかどうかは不明であるが、皆さんの身の回りの「常識」は、果たして「常識」なのだろうか。本講義ではこうした「常識」の自明性について再考し、「あたりまえ」的思考からの脱却をめざす。進度に応じて多少の内容の変更の可能性がある。

到達目標

1) 文化人類学の鍛えてきた基礎理論を学ぶことで、異文化理解の基礎的な方法を身に付けることができる。
 2) まずは偏見を持たずに外国の文化と接するための基礎的なものの考え方が身に付く。3) 一見すると我々の文化とはかけ離れている遠い国や地域の文化の中に我々の文化と同じ普遍性が見いだせるようになる。
 4) 我々日本人が持つ「正しさ」や「当たり前」が、必ずしも普遍的な価値を持つものではないことも理解できるようになる。(日本の文化を相対的に眺めるといふ視点を身に付けることができるようになる)。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	穴埋め試験・・・文化人類学の基礎的な理論を理解できているか。あるいは著名な文化人類学者の名前なども問う。記述試験・・・論理的であること。文化人類学の概念を正確に理解できていること。発想にオリジナリティがあること。
レポート課題	40	論理的であること。文化人類学の用語が正確に理解し、使えていること。ネット情報だけに頼らず、文献も調べていること。
上記以外		授業期間中に発言をした学生は、一回につき1点を加点していきます。

授業外学習

各回の該当する教科書の部分は、事前に読んでおくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	文化人類学カレッジ版	波平恵美子	医学書院	9784260013178
2	文化人類学キーワード	山下晋司・船曳建夫	有斐閣	978464105886
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	よくわかる文化人類学	綾部恒雄・桑山敬己	ミネルヴァ書房	4623045773
2	よくわかる異文化コミュニケーション	池田理知子	ミネルヴァ書房	9784623056095
3				

前提学力等

特になし。

履修資格

講義名	文化人類学概論 B							担当教員	棚瀬 慈郎
講義コード	1402970	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH205, 1371LA101								

授業概要

文化人類学において蓄積されてきた知見のうち、1) 親族研究、2) 医療人類学、3) 「死」とそれに関わるシンボリズムと儀礼の研究を中心に論じる。

到達目標

文化人類学の広範な学術的蓄積の中で、特に親族研究についての理論、知見についての知識の獲得を目指す。また医療人類学や葬送儀礼についても学ぶ。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	講義で紹介してきた文官人類学の理論や用語、代表的な研究、事例についての理解度を評価基準とする。
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	文化人類学(カレッジ版)	波平恵美子	医学書院	9784260013178
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	文化人類学特論							担当教員	棚瀬 慈郎
講義コード	1402980	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH206, 3371LA205								

授業概要

人間は、その文化に固有の宇宙観、生命観に従って、人間の誕生、性、死を意味づけてきた。講義の中では、豊富な文化人類学的資料を提示し、そういった普遍的な人間事象が各文化においてもつ意味を考察する。また現代的な医療システムの浸透は、人間の生と死のあり方を大きく変化させつつあるが、現代における誕生、性、死の問題についても検討する。

到達目標

性、誕生、死といった人間の普遍的な事象を考察することを通じて、文化の特殊性と、人間存在の普遍性についての考察を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	授業中に紹介した文化人類学のタームや理論についての理解度を評価基準とする。
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	民俗学							担当教員	市川 秀之
講義コード	1403020	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER103								

授業概要

民俗学はわれわれが過ごしている日常生活の意味を問い直す学問である。滋賀県の民俗は、古くから多くの民俗学者の研究対象となり、そこからさまざまな民俗学的知見が生成されてきた。宮座論・環境民俗学など滋賀県を母胎として誕生した研究領域も多い。この授業では、過去の研究や調査成果を紹介し、近江の民俗を具体的な事例としながら、民俗学全体を概括的に解説する。
この授業は民俗学特論や民俗学実習の基礎科目としての位置づけを持つ。

到達目標

- (1) 民俗学の基本的な用語を理解すること
- (2) 民俗の基本的な概念を理解し、それを文章の形で表現すること
- (3) フィールドワークの基礎を身につけること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	・民俗学の基本的な用語を理解すること(語句説明) ・民俗の基本的な概念を理解し、それを文章の形で表現すること(記述式)
レポート課題	20	年中行事の観察や聞き取りをおこない、その成果を文章で表現する
上記以外	40	毎回提出するレスポンスカードを通じて、各授業の内容を理解しているか否かを評価

レポートを提出しないと評価対象にしない

授業外学習

宿題は特に課さないが、毎回授業のあとで提出するレスポンスカードの内容については評価対象とする。レスポンスカードへの回答は次回に配布するので熟読すること

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	はじめて学ぶ民俗学	市川秀之ほか	ミネルヴァ書房	
2				
3				

毎回レジュメを配布する。

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	民俗学実習							担当教員	市川 秀之
講義コード	1403030	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HER205								

授業概要

民俗学の基本的な実務の習得をめざす。具体的には民具の観察・実測、石造物の調査、聞き取り調査、祭礼観察調査などの実習を行う。

到達目標

- (1) 民俗学研究に必要な実測技術、拓本技術などを習得すること。
(2) 聞き取り調査、祭礼などの観察調査を計画的に実施し、その成果をまとめ、発表する能力を身につけること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業における態度や、成果物(実測図・トレース・写真など)・発表内容などをもとに評価する

授業外学習

授業時間外で、聞き取り調査や祭礼観察調査をまとめ、そのデータを提出する。2回

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

民俗学を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	民俗学特論							担当教員	市川 秀之
講義コード	1403031	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HER304								

授業概要

民俗の歴史的な変化を検討するのが歴史民俗学である。そのためにどのような資料をどのように用いるのかをこの授業では具体的に講義していきたい。古文書・日記から石造物にいたる具体的な資料を紹介しながら、その分析方法についても講義することとした。

到達目標

- (1) 歴史民俗学における基本的な概念・用語などを理解する。
- (2) 歴史民俗学における資料の利用法について理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	民俗学における基本的な概念・用語・資料操作方法などを十分理解しているか否かを評価する
レポート課題		
上記以外	40	毎回提出するレスポンスカードの内容から、授業の理解度を評価する

授業外学習

授業はレジュメをもとに行うが事前に配布したものについては熟読しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回レジュメを配布する

前提学力等

民俗学を受講していること。2年次・3年次での履修が望ましい。

履修資格

講義名	モンゴル地域文化論/							担当教員	島村 一平
講義コード	1403070	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

本講義では、モンゴル遊牧社会が生み出した文化の魅力をさまざまな側面から描き出していきたい。扱う主なテーマは音楽、宗教、民族問題である。音楽に関しては、民族音楽のみならず、現代の都市の若者たちの間で流行しているポピュラー音楽から、現代モンゴル社会のもつ諸問題を概観していきたい。民族問題に関しては、ロシア、モンゴル、中国の三カ国に分断されて居住するモンゴル系の集団プリアート人の歴史と社会に焦点を当てて話を進めていきたい。中でも、シャーマニズムとエスニシティの関係を中心に論じていく。

本講義は国際コミュニケーション学科の「アジア文化論C」を読み替えることで単位が取得されます。受講希望者は、アジア文化論Cを見ること。

到達目標

モンゴル文化の諸側面を理解する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	試験で100%評価する。記述式試験。
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

遊牧社会論を履修していることが望ましい

履修資格

講義名	量的データ解析論							担当教員	丸山 真央
講義コード	1403100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230SOC206, 235SOC204								

授業概要

この授業では、統計データの整理・分析に最低限必要な基礎知識を学ぶ。あわせて統計パッケージソフトSPSSの基本操作を習得し、実際のデータによる簡単な分析によって社会統計学に関する理解を深めるとともに、実践的な分析の技能の習得をめざす。

到達目標

- (1) 社会統計のデータを整理・分析する基礎知識（記述統計と推測統計の基礎）を習得する。
- (2) 統計パッケージソフトSPSSの基本的な使い方を身につけ、実際に基礎的なデータ解析ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	到達課題の(1)と(2)について、実際の量的データを分析して作成するレポート課題を課す。
上記以外	70	到達課題の(1)と(2)について、実際の量的データを分析して作成する小課題を課す。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、レジュメを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会統計学	ポーンシュテット・ノーキ	ハーベスト社	
2	社会統計学ベーシック	片瀬一男ほか	ミネルヴァ書房	
3	SPSSによる多変量解析	村瀬洋一ほか編	オーム社	

参考書は授業の中で指示する。

前提学力等

社会調査論、統計学基礎が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は必ず事前に相談すること。

履修資格

講義名	量的データ解析論							担当教員	岡本 裕介
講義コード	1403110	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C207, 335S0C311								

授業概要

人文学系・社会科学系の研究においても、多変量解析を用いてデータ分析することが多い。この講義では、その中から主として重回帰分析、因子分析、数量化理論I・III類を取り上げる。

到達目標

- (1)各手法の基本的な考え方を身に付けること(これが主たる目的)。
- (2)計算の概要、統計パッケージの出力の見方を理解し、各手法の誤用を避けられるようになること。
- (3)研究事例や歴史を紐解いて、具体的な問題意識との関連を考えられるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	演習問題を解いて提出する。多変量解析の場合、分析者の裁量の余地があるので、正解は1つではないが、基本的な注意事項をふまえて解答しているかどうかを評価基準とする。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリントを配布する。講義中に随時推薦する。

前提学力等

統計学基礎、量的データ解析論 が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は必ず事前に相談すること。

履修資格

講義名	歴史的地域論							担当教員	水野 章二
講義コード	1403210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HIS210								

授業概要

地域社会を構成するイエ・ムラなどの基礎的な集団やその相互の関係が、どのように歴史的に形成され、変化していくかを明らかにする。文献史学・歴史地理学・考古学・民俗学などの成果を総合しながら、自然的社会的諸条件が地域を構成する諸集団の編成原理や秩序のあり方にどのように関わるのかを考える。

到達目標

- (1) 重層的に成立し、時間の中で変化していく地域社会のあり方が理解できる。
(2) 最も基礎的な社会集団であるイエ・ムラなどの歴史的役割が理解できる。
(3) 地域社会を成り立たせている景観的特質とその変容が理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	(1) 重層的に成立し、時間の中で変化していく地域社会のあり方が理解できる。 20% (2) 最も基礎的な社会集団であるイエ・ムラなどの歴史的役割が理解できる。 30% (3) 地域社会を成り立たせている景観的特質とその変容が理解できる。 20%
レポート課題		
上記以外	30	到達目標各項目について、理解度を確認し、質問させるレスポンスペーパーを随時提出。

授業外学習

関連する著書・論文を各自で読み込む。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	日本中世の村落と荘園制	水野章二	校倉書房	4-7517-3090-8
2	琵琶湖と人の環境史	水野章二編	岩田書院	978-4-87294-691-8
3	中世村落の景観と環境	水野章二編	思文閣出版	4-7842-1198-5

前提学力等

履修資格

